



学校法人常磐大学

常磐大学大学院

常磐大学

常磐短期大学

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1
TEL.029-232-2511 FAX.029-231-6078
<http://www.tokiwa.ac.jp/>

常磐大学高等学校

〒310-0036 茨城県水戸市新荘3-2-28
TEL.029-224-1707 FAX.029-224-6579
<http://www.tokiwa.ac.jp/~tokikou/>

智学館中等教育学校

〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2092
TEL.029-212-3311 FAX.029-212-3300
<http://www.tokiwa.ac.jp/~chigakukan/>

常磐大学幼稚園

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-425
TEL.029-232-2680 FAX.029-232-2824
<http://www.tokiwa.ac.jp/~youchien/>



常磐大学は平成28年度
大学評価の結果、(公財)
大学基準協会の大学基
準に適合していると認定
されました。



常磐短期大学は平成26
年度(一財)短期大学基
準協会による第三者評
価の結果、適格と認定さ
れました。

TOKIWA UNIVERSITY 2017

学校法人常磐大学アニュアルレポート2017



Annual Report 2017

学校法人常磐大学
2016年度の活動と財務状況



学校法人常磐大学 建学の精神

実学を重んじ 真摯な態度を身につけた 人間を育てる

まだ女性を受け入れる教育機関が乏しかった1909年、
学校法人常磐大学の前身は、
女性の自立を支える私塾として開学しました。
以降、幼稚園から大学院までを擁する総合学園となった今も、
創立者の意志を受け継いだ
「実学を重んじ、真摯な態度を身につけた人間を育てる」を
建学の精神に、社会に貢献できる人材の育成に努めています。

沿革 Historical Background

私塾から総合学園へ。100年の歴史に立脚した理想の教育モデルを追求する教育・研究機関へ。

1909年	小田木(諸澤)みよ 水戸市馬口労町に裁縫教授所を開設	2002年	常磐短期大学の幼児教育学科を幼児教育保育学科に名称変更
1922年	水戸常磐女学校を開校	2003年	常磐短期大学教養学科、経営情報学科を募集停止 常磐短期大学キャリア教養学科を設置
1935年	常磐高等女学校を開校	2004年	常磐大学大学院コミュニティ振興学研究所 コミュニティ振興学専攻修士課程を設置 常磐大学人間科学部人間関係学科、組織管理学科および 国際学部国際協力学科、国際ビジネス学科を募集停止 常磐大学人間科学部心理教育学科、現代社会学科および 国際学部国際関係学科(国際協力学専攻、国際ビジネス学専攻)、 英米語学科を設置
1948年	学制改革により総合制の常磐女子高等学校を開校 (普通科、被服科、商業科、別科)	2005年	学校法人常磐学園を学校法人常磐大学に名称変更 常磐大学大学院被害者学研究所被害者学専攻修士課程を設置 常磐短期大学附属幼稚園を常磐大学幼稚園に名称変更
1951年	私立学校法により学校法人常磐学園設置認可	2006年	常磐大学コミュニティ振興学部地域政策学科を設置
1966年	常磐学園短期大学設置認可 常磐学園短期大学を開学(家政科家政専攻、家政科食物栄養専攻)	2007年	智学館中等教育学校設置認可
1968年	常磐学園短期大学幼児教育科を設置	2008年	常磐大学人間科学部心理教育学科および国際学部国際関係学科 (国際協力学専攻、国際ビジネス学専攻)を募集停止 常磐大学人間科学部心理学科、教育学科、健康栄養学科および 国際学部経営学科を設置 常磐短期大学生活科学科生活科学専攻、 生活科学科食物栄養専攻を募集停止 智学館中等教育学校を開校
1969年	常磐学園短期大学附属幼稚園設置認可	2013年	常磐大学大学院被害者学研究所被害者学専攻博士課程(後期)を設置
1970年	常磐学園短期大学附属幼稚園を開園	2015年	常磐大学幼稚園が認定こども園(幼稚園型)に認定
1975年	常磐学園短期大学教養科を設置	2016年	常磐大学大学院被害者学研究所被害者学専攻博士課程(後期)、 修士課程、およびコミュニティ振興学研究所コミュニティ振興学専攻 修士課程を募集停止
1983年	常磐大学設置認可 常磐大学を開学 (人間科学部人間関係学科、人間科学部コミュニケーション学科)	2017年	常磐大学国際学部を募集停止(経営学科、英米語学科) 常磐大学コミュニティ振興学部を募集停止 (コミュニティ文化学科、地域政策学科、ヒューマンサービス学科) 常磐大学総合政策学部を設置(経営学科、法律行政学科、総合政策学科)
1987年	常磐学園短期大学の学科名称変更(教養科を教養学科、幼児教育科を 幼児教育学科、家政科家政専攻を生活科学科生活科学専攻、 家政科食物栄養専攻を生活科学科食物栄養専攻)		
1988年	常磐大学人間科学部組織管理学科を設置		
1989年	常磐大学大学院人間科学研究科人間科学専攻修士課程を設置		
1990年	常磐学園短期大学を常磐大学短期大学部に名称変更し、男女共学化 常磐大学短期大学部経営情報学科を設置 常磐学園短期大学附属幼稚園を 常磐大学短期大学部附属幼稚園に名称変更		
1993年	常磐大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士課程(後期)を設置		
1996年	常磐大学国際学部を設置(国際協力学科、国際ビジネス学科)		
1999年	常磐大学短期大学部を常磐短期大学に名称変更 常磐大学短期大学部附属幼稚園を常磐短期大学附属幼稚園に名称変更		
2000年	常磐大学コミュニティ振興学部を設置 (コミュニティ文化学科、ヒューマンサービス学科) 常磐女子高等学校を常磐大学高等学校に名称変更し、男女共学化		

ANNUAL REPORT 2017

CONTENTS

01 建学の精神／沿革	24 法人の概要	32 常磐大学高等学校
02 Mission & Vision	26 常磐大学大学院	34 智学館中等教育学校
04 2016年度 事業概要	27 常磐大学	36 常磐大学幼稚園
16 財務状況	29 常磐短期大学	38 キャンパス案内
22 データ	30 学生サポート／	41 発行・出版物／アクセス センター・研究所等



TOKIWA
マスコットキャラクター
「ときわんこ」



TOKIWAシンボルの三角を構成するのは、本学ゆかりの常磐松にちなんだ松葉です。これは3つのキーワード、自立・創造・真摯を象徴しており、学生・父母・教職員の三者が互いに協力・理解し合って教育の効果を高め、社会に貢献する人材の育成に寄与することを表しています。これまで培ってきた人間教育に重きを置く本学の伝統を受け継ぎながら、新たな時代の教育機関として発展していくために、このシンボルマークはその精神的な支えとして力強く存在するものです。

2014-2018 Mission & Vision

Mission

自己を高め、相互に協力し、 未来を拓くことのできる 人材を育成する

本学の建学の精神である「実学を重んじ、真摯な態度を身につけた人間を育てる」に基づき、新たな時代のニーズに対応し得るミッションを策定し、学校法人常磐大学が設置する全ての教育機関に共通した基本的な指針として掲げるものとします。

知識基盤社会と称される21世紀の社会では、これまで以上に教育機関が担う責任は重く、不透明な時代の中で、柔軟な対応が求められています。グローバル化や少子高齢化の進展、地域の活力低下など、課題が山積する状況において、必要とされる教育機関として存在し続けるためには、有為な人材を育成し社会に貢献し続けることが必要と考えます。

本学では、学ぶことの楽しさと意義を知り、自主的に学び続けることで自己の能力を高め、絶え間なく変化する社会の中で実践的に活躍する人材を育成します。価値観が多様化した社会において、答えのない課題に取り組むためには、生涯学び続け自己を高める姿勢を身につけるとともに、他者と協力し、実現までの厳しい過程を乗り越える強い信念を有しなければなりません。

学校法人常磐大学は、設置している各学校それぞれの特性は高めながらも、一貫した考え方に基づき連携することで、自主的な学びを養成する教育の環境を整備し、ここに掲げたミッションの実現に向け、教育活動に邁進します。



学校法人常磐大学 理事長 **森 征一**

PROFILE

西洋法制史(中世ローマ法学)専門。一橋大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。慶應義塾大学助手、専任講師、助教授、教授を経て、2001年同大学法学部長・大学院法学研究科委員長。2005年学校法人慶應義塾常任理事、同年まで法文化学会理事長を務める。2010年学校法人常磐大学常任理事、2011年より常磐大学・常磐短期大学長、2012年より学校法人常磐大学理事長就任。

Vision

ミッションの達成に向け、次の4つのビジョンを柱として、それぞれの部門における行動計画の実現を推進していきます。

1 挑戦し続け、イノベーションを創出する力の養成

創立者が、人間の持つ力を強く伸び出る「竹」に例えて表現したように、一人ひとりには必ず伸び出る強い力を持っており、その能力を見出し伸ばすことこそが教育であると考えます。カリキュラムの見直しや授業方法の充実などを図り、魅力ある学びを創出することで、

継続的に何事にも挑戦する姿勢を身につけ、社会に貢献できる力を養成します。

入口(入試制度)と出口(キャリア・進路支援)においては、それぞれの個性に対応できる体制と制度を構築し、一人ひとりに適した教育を実現します。

- ◎大学・短期大学の改組転換を計画、実施
- ◎大学院の教育改革
- ◎授業内容・方法の充実
- ◎入試制度改革
- ◎キャリア支援・進路支援の強化

2 地域に学び、地域を世界に繋ぎ、安心安全な社会をつくる人材の育成

地域と連携し、社会の中で実践的な学びの場を創出することで、社会に適応するための「コミュニケーション力」、社会での活動に必要な問題を発見し

乗り越えるための「問題解決力」を身につけた人材を育成します。また、グローバル化が進む社会で活躍するための「語学力」の養成を強化します。

- ◎産学官民連携の実践
- ◎地域連携の推進
- ◎国際化の推進
- ◎同窓会との連携強化

3 総合的な「教育力」の強化

さまざまな改革を実現するためには、教育を支える教職員の能力を高めることが必要です。創立者が信念として語った「教えるものは常に前進してこそ指導する資格がある」との言葉にもある通り、教職員の研修

制度を拡充するなど質的向上の方策を実現します。情報機器をはじめとした教育設備の充実や、教育研究のための環境整備等を進めるとともに、教育研究活動の活性化に向けた支援を強化します。

- ◎人材育成計画の策定および実施
- ◎教育研究に係わる経費の適正化
- ◎教育環境の整備
- ◎修学支援の強化
- ◎課外活動支援の強化

4 持続的な教育活動を可能にする運営基盤の確立

魅力ある教育を継続しながら、それらを適切に伝達する効果的な広報活動を実践し、学生・生徒・園児の安定した確保を実現します。また、時代に則し

た判断と、中長期的な計画に基づき、経費の見直しを図り、健全な財政状況を実現するための施策を推進します。

- ◎財務計画の策定
- ◎人件費の適正化
- ◎施設設備計画の策定および実施
- ◎広報活動の強化
- ◎設置する教育機関間の連携強化

2016年度 事業概要

Achievement Report 2016

学校法人常磐大学

人的資源

01 教職員人事制度および人事計画の見直し

- ・常磐大学職員の居住に関する規程に基づく在勤地周辺への居住の徹底ならびに居住地変更に関する申し合わせ(特例)に基づく手続き・承認の徹底
- ・茨城県私立幼稚園退職基金財団の支給率変更に伴う「学校法人常磐大学退職金規則」の一部変更
- ・業務を補完できる効率的な体制の構築と人事配置の最適化
- ・人事採用計画に基づく採用の実施
- ・「学校法人常磐大学再雇用規程」の遵守と徹底
- ・ストレスチェックの実施とストレスチェック制度実施規程の制定(継続)

02 事務職員研修計画の策定と人材育成施策の充実

- ・FD・SDと連携して組織的に取り組む検討を行い、最初の取り組みとして大学院、大学および短期大学におけるFD活動に対してSDの一環として職員の参加を促進(最低一つのFD活動への出席の義務付け)
- ・経営・財務状況の把握・分析等のSDの実施
- ・教職員対象の経営・財務状況に関する説明会の実施
- ・職員研修制度運営委員会において階層別研修の企画・運営ならびに目的別研修とする各種セミナー・研修会への派遣等を中心に実施
- ・学校法人常磐大学研修方針の検討(人材育成の基本的な考え方から必須研修までの5つのカテゴリー別)
- ・学校法人常磐大学研修体系を整理し、職員研修プログラムを検討

03 人事評価制度導入に関する検討継続

- ・2017年度の試行に向けて人事評価制度構築の検討を継続

財務

01 常磐大学の改組転換・新学部設置、見和キャンパス施設整備事業等を見据えた5ヶ年経営改善計画：中期財務見通しの精査とフォローアップ

常磐大学の改組転換および新学部設置に伴う整備計画や見和キャンパス施設整備事業など中期計画の見直し、修正と5ヶ年計画最終年度となる2017年度収支見通しの再精査を行った。

02 常磐大学の改組転換等を踏まえた、広報施策の充実と学生・生徒募集の強化

[各学校に記載]

03 消費税増税に向けた対策と経常的経費の支出抑制

消費税増税の時期が当初の2017年4月から2019年10月に延期されたことに伴い、経常的経費の抑制のみの対応となった。2016年度は、執行時における支出の管理、抑制を図ることでさらなる収支の改善に努め、2017年度に向けては、法人全体で経常収支での差額改善を図るため予算の削減を実施した。

04 教育研究に係わる経費支出の適正化

2016年度の比率としては、新設学部を含む大学・短期大学では28.3%、法人全体では31.4%と、2015年度と比較すると下回る結果となったが、教育の質を保持しつつ、経常収支の差額改善も図っていくため、法人全体として30%程度を維持することを目標にさらなる経費支出の適正化を図っていく。

○2016年度実績 28.3%〔大学・短期大学合計比率〕

部門	経常収入	教育研究経費	比率
法人全体	5,175,833,449円	1,624,261,952円	31.4%
大学・短期大学	3,734,844,492円	1,056,619,833円	28.3%

○2015年度実績 29.2%〔大学・短期大学合計比率〕

部門	経常収入	教育研究経費	比率
法人全体	5,126,204,480円	1,689,881,463円	33.0%
大学・短期大学	3,791,561,263円	1,105,916,036円	29.2%

(注)「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

05 人件費抑制施策の継続

- ・大学および短期大学専任教員の賞与の期末手当および勤勉手当における役職加算の廃止と勤勉手当支給基準の出勤率の厳格化
- ・定年後の再雇用者に対する基本給月額に関する申し合わせの徹底
- ・事務職員の時間外労働抑制(上限の設定および深夜労働の禁止)の徹底
- ・適正な労働時間についての継続的な周知と意識喚起
- ・定時退勤の習慣化、ノー残業デーの実施
- ・大学院手当支給規程の制定および大学院手当水準ならびに支給範囲の見直し
- ・通勤手当に関する現状の運用について給与規則運用細則として制定
- ・「学校法人常磐大学役員等の給与および報酬に関する規則」の一部変更(非常勤理事、監事、評議員の報酬の適正化)

06 見和キャンパス開設50年施設整備事業募金の展開と、諸澤幸雄奨学金募金の継続

見和キャンパス開設50年施設整備事業募金の募集開始に伴い、本学ホームページの寄付サイトを更新し、コンビニエンスストアでの申し込みなど幅広く募集を可能とした。また募金案内のパンフレットも制作し、教職員や卒業生、企業への募集活動も行った。

○諸澤幸雄奨学金給付実績累計(内2016年度)

	I種 奨学生	II種 奨学生	給付額
大学院	0名(0名)	0名(0名)	0円 (0円)
大学	57名(10名)	26名(3名)	19,075,000円(2,800,000円)
短期大学	9名(0名)	7名(2名)	3,795,000円 (660,000円)
高等学校	29名(0名)	7名(2名)	2,414,960円 (174,000円)
中等教育学校	5名(1名)	4名(1名)	1,156,440円 (224,040円)
計	100名(11名)	44名(8名)	26,441,400円(3,858,040円)

○寄付金総額(2017年3月31日現在)

寄付金総額累計(内2016年度)	142,790,645円(14,994,760円)
募金件数累計(内2016年度)	4,287件 (351件)

諸澤幸雄奨学金の充実への寄付(上記の内訳)(2017年3月31日現在)

寄付金額累計(内2016年度)	97,463,208円(2,621,000円)
募金件数累計(内2016年度)	3,918件 (104件)

見和キャンパス開設50年施設整備事業募金への寄付(上記の内訳)(2017年3月31日現在)

寄付金額累計(内2016年度)	5,733,760円(5,733,760円)
募金件数累計(内2016年度)	234件 (234件)

07 科学研究費補助金、受託研究費等の外部資金獲得の強化

2016年度における科学研究費助成事業の採択状況、受託研究および寄付講座等の実施状況は次のとおりである。〔()内は2015年度実績を示す。〕

○科学研究費助成事業

38件/24,110,000円(28件/18,176,000円)

○受託研究

0件/0円(1件/980,000円)

○その他の研究

0件/0円(1件/300,000円)

○寄付講座

3件/4,000,000円/6科目開講
(3件/3,972,050円/5科目開講)

08 消費税増税、軽減税率導入に伴う事務処理の統制

消費税増税の時期が当初の2017年4月から2019年10月に延期されたことに伴い、翌年度以降での検討となった。

施設設備

01 見和キャンパス体育館改築工事の実施 [1,021,567,680円]

新体育館の建築工事を実施し、2017年3月に竣工した。



2016年度 事業概要

Achievement Report 2016

02 見和キャンパス体育館改築工事に伴う、第1駐車場代替地駐車場の整備 [24,849,924円]

新体育館建築場所である第1駐車場の代替駐車場を、新体育館西側および第3駐車場脇に整備した。

03 見和キャンパスA・B棟の改築計画の策定

A・B棟の改築計画を含めた施設設備の整備計画・修繕計画等の中長期計画について、「施設等環境整備計画」を策定した。

04 姫が丘寮の環境整備 [1,017,705円]

什器を購入し、2人部屋入寮者への対応を行った。

05 情報メディアセンター図書館システムの更新 [32,393,892円]

2010年に導入した図書館システムについて、システムの信頼性・操作性・保守性の向上を図ることを目的に、既存のデータを引き継ぎつつ、ハードウェアおよびシステムを最新のバージョンに更新した。これにより、操作性の向上と検索機能の強化が実現し、利用者の学習・研究の環境が整備された。

管理運営

01 常磐大学改組転換の実施 (総合政策学部の設置)

2017年4月より、国際学部およびコミュニティ振興学部を募集停止し、総合政策学部(経営学科、法律行政学科、総合政策学科)を設置する旨の届出を行った。

02 常磐大学看護学部設置の準備

看護学部看護学科(2018年度開設)の認可申請を行った。

03 学校間の相互交流・連携強化 (連絡会議等の検討)

[各学校に記載]

04 常磐短期大学創立50周年記念事業の実施

以下の各種記念事業を実施した。

- ・50周年記念ロゴマークの募集、選考および記念グッズの制作、配布
- ・50周年記念式典・祝賀会の開催(2016年11月19日)
- ・50周年記念講演会の開催(2016年10月23日)
*同窓会「みわの会」共催
- ・50周年記念誌の制作、配布



常磐大学

教育研究

学校教育法第109条第2項の規定に基づき、公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受審した。評価の結果、本学は同協会の大学基準に適合していると認定された。認定の期間は2024(平成36)年3月31日までとなる。

01 常磐大学改組転換に伴う、3つのポリシーの点検および見直し

「学校法人常磐大学の5ヶ年経営改善計画」における教育改革(大学・大学院)に関する記載との関連から、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー等の適切性について、各学部・研究科において自己点検・評価を実施した。具体的には、教育、研究、学生対応、教員、教員組織等の項目別に当年度の実現計画を策定し、適時対応状況を確認するとともに、改善策を検討した。2017年度に開設する総合政策学部については、設置計画において策定した各ポリシーに基づき開設準備を進めた。また、人間科学部では、前述の点検結果および大学全体の改組転換計画等を踏まえ、一部の学科においてディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを見直すとともに、授業の実施方法等の見直しを実施した。

02 アクティブ・ラーニング普及に向けた取り組みの推進

教育実践力の向上等を目指して、一般財団法人全国大学実務教育協会主催の「能動的学修の教員研修リーダー講座」に本学教員(1名)を派遣した。また、「アクティブ・ラーニング」をテーマとして実施した「2016年度FDフォーラム」(2017年2月開催)では、上記講座の参加教員による講演を通じて研修の成果を広く学内に還元するとともに、学内の事例発表等を通じてアクティブ・ラーニングに関する情報の共有、認識の確立等に取り組んだ。

03 研究活動の活性化の推進

○研究予算の増額配分

教員の研究への動機付け、科学研究費等外部資金への申請件数の向上を図るため、インセンティブ施策配分を拡充するとともに、学内研究予算を増額し今後もその水準を維持することとし、2016年度から実施した。

○個人研究費配分方法の適正化 (研究への動機付け強化)

研究活動の充実、科学研究費等外部資金の獲得強化、教育研究費の効率的活用に向けて、2015年度中に個人研究費の見直しを行うとともに、「全学教員研究費規程運用細則」を制定し、2016年度から実施した。

○研究環境整備に関する調査の実施

2015年度に科学研究費助成事業採択者を対象として実施した「研究環境整備に関する調査」の結果を踏まえて、補充的な調査を実施するとともに、対応策の検討に取り組んだ。具体的には、関連会議等において挙げられた意見を集約する、個別に意見を聴取する、などの方法により調査を実施した。また、特に大学院における教育、研究指導の方法、研究環境および教育環境等の改善等を目的として、大学院生を対象に「教育体制等改善のための調査」を実施するなど、大学院生の研究環境整備にも配慮している。

04 外部資金獲得の促進

申請件数の増加と採択率の向上を目指して、公募説明会の開催、個別相談等による教員への申請の奨励等に取り組んだ。研究課題の採択に向け、研究計画調書や応募書類の確認のほか必要に応じて助言等も行った。なお、課題研究費の第2期募集においては、科学研究費助成事業に応募したが採択に至らなかった課題を対象として、次回応募に向けた予備的研究を行うための応募枠を設け、審査評価が一定水準以上であった申請課題を優先的に採択することとして

いる。また、教育および学術研究の充実・発展のため、教育研究の奨励(寄付講座および寄付研究を含む)を主な用途とする寄付金の募集にも取り組み、同資金を活用して寄付講座を開講した。

学生支援

01 学修支援を推進するサポート体制の充実

全学的な組織として、全学学修サポート委員会を設け、学修機能の強化を図った。新入生に対し、入学前教育と基礎能力アッププログラムを提供し、苦手科目を克服し、大学における学びに積極的に取り組めるように支援した。

02 課外活動への支援の充実 (物理的環境、人的環境の整備)

- ・新入生ガイダンス期間中に学生主導によるサークル紹介の時間を設け、課外活動への参加呼びかけを促進した。
- ・課外活動の状況は各団体が個別で広報をしているが、強化部の対外試合結果については、大学公式ホームページで広報した。

03 キャリア支援プログラムの充実

キャリア支援センターが中心となり、主に3年次以降に就職活動支援事業を展開した。

- ・インターンシップ参加促進(参加ガイダンス、マッチングフェアの実施、キャリア教育科目担当教員と連携し、常磐インターンシップ制度について検討を開始)
- ・業界研究のための企業見学バスツアーの実施(製造業界・株式会社常陽銀行との連携実施、金融業界、卸・小売業界)
- ・合同企業説明会を毎月開催(セメスター期間中)
- ・就職情報管理システム(J-NET)を導入し、本学宛の求人情報をリアルタイムに確認することを可能にし、キャリア支援ポータルサイトとして活用を開始
- ・学生からの要望を受け、就職体験記(Real Message)をWeb化し、学生の利便性を向上
- ・キャリア教育科目(専任教員)との連携により、4年間のキャリア支援を体系化

2016年度 事業概要

Achievement Report 2016

学生募集の強化

01 広報活動の充実

全学広報委員会において、学生募集に関する広報活動の基本方針を審議し、この方針に沿って学生募集の企画を検討、下記に示す広報活動を展開した。なお、大学の入試結果データと資料請求・イベント参加などで大学が個人情報取得した履歴を基にした大学接触者データとをマッチングさせ、それらのデータ解析を行うことにより当該年度の入試、接触状況の分析等を行い、入試結果報告会を開催し、入試動向を概括して今後の学生の受け入れの一助とした。

- ・常磐大学および常磐短期大学の志願者、受験者、合格者データ（過去5年間）に基づき、募集活動の基本である高校訪問（茨城県および隣接県を中心に延べ216校）を実施した。
- ・県内高校生を中心として本学への理解が深まるよう取り組み、さらに高大連携の観点から大学への関心と高校との交流を深めるため、出張講座（計31校）を企画、開催した。
- ・高校生を対象とした進学説明会（主に茨城県、栃木県、福島県のイベント会場での相談会49件、高校内での説明会102件）に参加して志願者増を目指すとともに、高校教諭を対象とした大学説明会を開催して本学の学部、学科の概要および入試制度等の説明を実施した。
- ・常磐大学・常磐短期大学大学説明会の開催
日 時：6月10日（金）〔説明会14:00～15:30、個別相談・施設見学15:30～16:30〕
場 所：常磐大学・常磐短期大学 Q棟センターホール
- ・オープンキャンパスへの来場者数増を目的として、交通広告（7月、常磐線、関東鉄道、TX等）を掲出し、本学の認知度アップ、志願者増を狙い、インターネット広告（6・7・12・1月）を実施し、さらに、試験入試志願者、特にセンター試験利用入試での志願者増を狙い、茨城県、福島県および栃木県の受験生にDM（1・2月）を送付した。
- ・オープンキャンパスの実施（参加者総数：2942名）
募集活動の主要イベントとして、本学のキャンパスを開放して学部・学科の紹介、模擬授業などを行うオープンキャンパスを7回実施し、本学への理解が深まるよう取り組みを行った。

	期 日	時 間	内 容	参加者
第1回	3/26(土)	13:00～16:00	大学・短期大学紹介、学部・学科選びのポイントなど	274名
第2回	5/10(火)～12(木)	10:00～17:00	授業見学	127名
第3回	6/25(土)	13:00～16:00	AO・推薦入試会、個別相談、学生企画、キャンパス・ツアー等	462名
第4回	7/30(土)	10:00～14:00	模擬授業、個別相談、学生企画、学科体験イベント、キャンパス・ツアー、学食体験等	1038名
第5回	8/7(日)	10:00～14:00	模擬授業、個別相談、学生企画、学科体験イベント、キャンパス・ツアー、学食体験等	886名
第6回	10/22(土)23(日)	10:00～16:00	入試相談会（ときわ祭と同日開催）	51名
第7回	10/29(土)12/3(土)12/17(土)	13:00～16:30	高校生のための公開講座	104名

・常磐大学高等学校、智学館中等教育学校からの志願者増を目的として、模擬面接や進学説明会等を実施。また、常磐大学高等学校では、常磐大学特別講義（計10講座）を企画、開催した。

02 入試制度の点検および見直し（インターネット出願導入の検討を含む）

大学入試委員会において、各入試制度実施後に確認された改善点および学校教育法施行規則の改正等を基に、翌年度の入試実施に向け次のとおり検討した。

- ・AO入試による合格者数の増加を鑑み、推薦入試の募集定員5%をAO入試の募集定員に振り分けた。
- ・AO入試の審査内容について、学部・学科ごとに審査内容が異なることから生じる審査の煩雑さを解消するために、審査内容を精査して可能な範囲で学部・学科間の統一化を図った。
- ・外国の学校教育を受けた人に大学入学資格を変更するための学校教育法施行規則の改正等に伴い、本学においても外国人留学生・帰国子女入試の出願資格を変更した。
- ・インターネット出願導入については、2018年度募集活動（看護学部開設予定）に合わせてアドミッションセンターを中心に検討したが、2020年度「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入など入試制度の抜本的な変更が予定されていることから、引き続き検討することとした。

地域連携・国際交流

01 産・学・官・民連携プロジェクトの推進

【継続事業】

- ・一般社団法人茨城県経営者協会「産学連携講座」の開講（10年目）
- ・常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデーの開催（7年目）
- ・ボランティア・市民活動フェスティバル2016の開催（3年目）
- ・茨城県社会福祉協議会への協力（「子育て支援員研修」への大学および短期大学の教員派遣）
- ・農林水産物地域ブランド力向上支援事業への協力（ホッキ貝、ワカサギ、養殖コイ）

【2016年度の新たな取り組み】

- ・株式会社茨城新聞社との共催事業
本県ゆかりの水墨画家の雪村に関する講座を常磐大学オープンカレッジで、茨城新聞社と共同で開催した（講座名：「水墨画の巨匠雪村・謎の生涯を追う」）。
- ・茨城県近代美術館との連携活動
美術館企画のワークショップに、学生・教員がインターシブとして参加し、企画の運営に協力した。
- ・茨城県「学生による学生のためのライフプラン構築等応援事業」に本学学生の企画が採択され、講演会を開催した。
- ・いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムの「道の駅ひたちおおた」への支援活動に参加し、開業イベント、物産展などの実施に協力した。

02 連携協定締結自治体との実質的連携の推進

連携自治体からの委員・講師の派遣要請に対応したほか、水戸市（水戸市選挙管理委員会）とは参院選の期日前投票所の学内設置に協力した。常陸太田市が2017年度から運営を開始した生活の厳しい世帯の子どもを対象とした学習支援事業に学生を派遣し、学習の補助、進学等に対する助言などの活動に協力した。

03 COC+採択事業「茨城と向き合い茨城に根ざし、未来を育む地域協創人材養成事業」の推進

- ・「ときわ災害食レシピコンテスト2016」を企画、実施した。
- ・第1回〈災害とこころ〉講演会を開催した。
- ・本学のCOC+に関連する事業を推進するための学生組織として「ときわbosaiサポーター」を立ち上げ、学生ワークショップを実施した。
- ・「業界企業研究・インターンシップ促進イベント」を開催した。
- ・「業界見学バスツアー」を実施した。
- ・「業界企業研究会OB・OG on Campus」を実施した。

04 海外研修・交換留学プログラムの充実

○海外研修プログラム

- ・海外研修A（米：カリフォルニア大学アーバイン校）
2月5日～3月5日（29日間）参加9名
- ・海外研修C（英：チチェスターカレッジ）
8月7日～8月24日（18日間）参加11名
- ・海外研修C（タイ：チェンマイ・ラジャバット大学）
2月15日～3月2日（16日間）参加3名
- ・海外研修C（フィリピン：バゴ市立大学）
2月12日～2月25日（14日間）参加8名

○交換留学制度

- ・カナダの協定校への交換留学生派遣（ランガラ・カレッジ）参加2名
- ・タイの協定校への交換留学生派遣（チェンマイ・ラジャバット大学）参加1名
- ・アメリカの協定校からの交換留学生受入 受入8名
- ・カナダの協定校からの交換留学生受入 受入3名
- ・タイの協定校からの交換留学生受入 受入3名

交換留学生との英会話交流活動（English Connections）、国際交流企画サポーター活動、国際交流パーティー等を実施した。また、18名の学生が国際交流会館に入居し、交換留学生と共同生活を送りながら、生活のサポート、文化交流の役割を担った。

○官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム

- 第6期 2名採用
- ①人間科学部現代社会学科2年（派遣先：ニュージーランド）
（留学期間 2017年8月7日～2017年9月17日）
- ②人間科学部健康栄養学科1年（派遣先：フィリピン）
（留学期間 2017年8月10日～2017年9月30日）

○新規学術連携協定の締結

イギリス・チチェスターカレッジ 締結日：2017年1月6日

2016年度 事業概要

Achievement Report 2016

施設設備

01 ラーニング・ commons の整備

学生の学修活動を支援するための施設として、オープンエリア、講義室、ミーティング室および面談室を備えた「ラーニング・ commons」を整備し、2016年度秋 semester から運用を開始した。



02 キャンパスの環境整備

(F棟エレベーター設備更新、R・O棟(O007,106,107)空調設備更新、R棟屋上防水工事、F棟トイレ改修、学生用第4駐車場修繕工事)

学生および教職員にとって、より良い教育・研究環境を実現するため、キャンパスの各環境整備を実施した。

○F棟エレベーター設備更新 [11,890,000円]
設置から30年以上が経過したF棟エレベーターの更新工事を実施した。

○R棟空調設備更新(第2期分) [27,658,000円]
経年により劣化した各階の空調機のうち、B系統(地下1階から3階)の更新工事を実施した。

○O棟空調設備更新 [11,566,000円]
経年により劣化した各階の空調機のうち、O 007,106,107の更新工事を実施した。

○R棟屋上防水工事 [ー 円]
竣工から20年目を迎え雨漏りが発生したため屋上防水工事を計画したが、緊急性が高まったため2015年度末に実施した。なお、屋上防水工事として計画した予算は、総合政策学部開設に合わせて総合政策学部専用として使用されるR棟1階ホール床タイルカーペット張替等工事に充当し実施した([3,672,000円])。

○F棟トイレ改修工事 [5,032,800円]
F棟2階トイレのリニューアル工事を実施した。

○学生用第4駐車場修繕工事 [1,157,587円]
不陸整正等の修繕工事を実施した。

03 見和キャンパス構内 緊急非常放送設備の設置 [4,073,804円]

非常時の環境整備として屋外用緊急非常放送設備を設置した。

04 見和キャンパス正門警備員室の設置 [2,894,400円]

防犯性・抑止力強化のため、正門脇に警備員室を設置した。

05 芝浦キャンパス閉鎖に伴う備品等解体・運搬、見和キャンパスの教室修繕および環境整備 [4,093,200円]

芝浦キャンパス閉鎖に伴いシステム・備品等の解体・撤去・運搬を実施した。

常磐短期大学

教育研究

01 3つのポリシーの点検 およびカリキュラムの見直し

建学の精神と教育の効果、教育課程と学生支援、教育資源と財的資源、リーダーシップとガバナンス等の項目別に当年度の行動計画を策定し、適時対応状況を確認している。確認の結果、2017年度に向けて直ちに3つのポリシーまたはカリキュラムを変更する必要性等は認められなかったものの、引き続き恒常的な点検・評価活動の推進に重点を置き、継続的に教育内容等の改善に取り組むこととした。

02 アクティブ・ラーニング普及に向けた取り組みの推進

教育実践力の向上等を目指して、一般財団法人全国大学実務教育協会主催の「能動的学修の教員研修リーダー講座」に本学教員(1名)を派遣した。「2016年度FD研究会」(2017年3月開催)では、上記講座の参加教員による報告を通じて研修の成果を広く学内に還元するとともに、アクティブ・ラーニングに関する情報の共有、認識の確立等に取り組んだ。また、「2016年度FD研修会(授業研修分科会)」(2016年9月開催)では、「自ら学ぶ力を育む」をテーマとし、参加者が「リメディアル(教育)」および「アクティブ・ラーニング」の2つの分科会に分かれて討議を行った。

座」に本学教員(1名)を派遣した。「2016年度FD研究会」(2017年3月開催)では、上記講座の参加教員による報告を通じて研修の成果を広く学内に還元するとともに、アクティブ・ラーニングに関する情報の共有、認識の確立等に取り組んだ。また、「2016年度FD研修会(授業研修分科会)」(2016年9月開催)では、「自ら学ぶ力を育む」をテーマとし、参加者が「リメディアル(教育)」および「アクティブ・ラーニング」の2つの分科会に分かれて討議を行った。

03 研究活動の活性化の推進

- ・研究予算の増額配分 [大学に同じ]
- ・個人研究費配分方法の適正化(研究への動機付け強化) [大学に同じ]
- ・研究環境整備に関する調査の実施
2015年度に科学研究費助成事業採択者を対象として実施した「研究環境整備に関する調査」の結果を踏まえて、補足的な調査を実施するとともに、対応策の検討に取り組んだ。具体的には、関連会議等において挙げられた意見を集約する、個別に意見を聴取する、などの方法により調査を実施した。

04 外部資金獲得の促進

[大学に同じ]

学生支援

01 学修支援を推進する サポート体制の充実

2年間の学生生活の充実を目的として、入学前からサポートする学びのシステムを導入し、学科ごとに課題テキストを用意している。さらに学習アセスメント調査で把握した学力を個別指導により指導教員がサポートし、基礎学力の伸びを確認するために平行テストを実施。各学科の進路に合わせ、就職を意識した学修サポートを実施した。

02 課外活動への支援の充実 (物理的環境、人的環境の整備)

時間的制約があるため課外活動への加入は減少しているが、大学の部活動の中で興味のある活動への学生の参加実績があった。社会へ巣立つ前に関心や教養を育む課外活動への支援を実施した。

03 キャリア支援プログラムの充実

キャリア支援センターが中心となり、次の就職活動支援事業を展開した。

- ・インターンシップ参加促進(参加ガイダンス、マッチングフェアの実施、キャリア教育科目担当教員と連携し、常磐インターンシップ制度について検討を開始)
- ・業界研究のための企業見学バスツアーの実施(製造業界・株式会社常陽銀行との連携実施、金融業界、卸・小売業界)
- ・合同企業説明会を毎月開催(semester期間中)
- ・就職情報管理システム(J-NET)を導入し、本学宛の求人情報をリアルタイムに確認することを可能にし、キャリア支援ポータルサイトとして活用を開始
- ・学生からの要望を受け、就職体験記(Real Message)をWeb化し、学生の利便性を向上

学生募集の強化

01 広報活動の充実

[大学に含めて記載]

02 入試制度の点検および見直し(インターネット出願導入の検討を含む)

[大学に含めて記載]

地域連携・国際交流

01 産・学・官・民連携 プロジェクトの推進

【継続事業】

- ・一般社団法人茨城県経営者協会「産学連携講座」の開講(10年目)
- ・常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデーの開催(7年目)
- ・ボランティア・市民活動フェスティバル2016の開催(3年目)
- ・茨城県社会福祉協議会への協力(「子育て支援員研修」への大学および短期大学の教員派遣)

【2016年度の新たな取り組み】

- ・株式会社茨城新聞社と茨城県立図書館との共催で、作家の吉村昭氏没後10年記念講演会を開催した。

2016年度 事業概要

Achievement Report 2016

02 連携協定締結自治体との実質的連携の推進

連携自治体からの委員・講師の派遣要請に対応したほか、水戸市（水戸市選挙管理委員会）とは参院選の期日前投票所の学内設置に協力した。

03 海外研修・交換留学プログラムの充実

○海外研修プログラム

- ・国際文化研修（英：チチェスターカレッジ）
8月7日～8月24日（18日間）参加2名
- ・海外研修C（タイ：チェンマイ・ラジャバット大学）
2月15日～3月2日（16日間）参加1名

○常磐大学交換留学生との交流

常磐大学交換留学生との英会話交流活動（English Connections）、国際交流企画サポーター活動、国際交流パーティー等を実施した。また、3名の学生が国際交流会館に入居し、交換留学生と共同生活を送りながら、生活のサポート、文化交流の役割を担った。

○新規学術連携協定の締結

イギリス・チチェスターカレッジ 締結日：2017年1月6日

施設設備

〔常磐大学との共通部分は、常磐大学に含めて記載〕

01 キャンパスの環境整備 （ピアノ更新（B棟3階ピアノレッスン室 グランドピアノ1台）、N棟トイレ改修）

学生および教職員にとって、より良い教育・研究環境を実現するため、キャンパスの各環境整備を実施した。

○ピアノ更新 [2,126,520円]

設置から30年以上が経過したB棟3階ピアノレッスン室（グランドピアノ1台）の更新を実施した。

○N棟トイレ改修 [633,960円]

N棟3階・4階トイレの温水洗浄便座化改修工事を実施した。合わせてJ棟2階・3階トイレについてもリニューアル工事を実施した（[2,750,760円]）。

常磐大学高等学校

教育・学習支援

01 学習支援・進路支援サービスの全学年導入

- ・学力向上のために、0限ゼミ、長期休業中のゼミを継続実施した。
- ・担当教員が授業改善に結び付けられるように、生徒による授業アンケートを学期ごとに実施した。
- ・全学年 Classi を導入し、スタディサポートと連動した課題を配信するなどの取り組みを実施した。2016年度は試行段階で活用方法に課題があったが、2017年度以降さらに活用できるように継続していく。

02 特進選抜コースにおける指導体制の確立

探究運営室を開設し、特進選抜コースでの取り組みを推進した。4月の里美研修では、地域の実情を調査研究する取り組みに始まり、「学びみらいPASS」受検による分析で、在籍生徒の学びの傾向を知り、探究活動に生かせるように検討した。常磐大学の教員にも指導を仰ぎ、涸沼の環境調査について考察する取り組みをはじめ、茨城大学PBL活動報告会や筑波大学・JICA見学に参加するなど、地域の諸問題への関心を高めた。

03 教員力の向上（教員の研修 制度の充実・研究活動の支援）

- ・AL（アクティブ・ラーニング）研修会を2回実施し、生徒が主体的かつ協働的に学び、理解を深める授業力を向上させる取り組みを実施した。
- ・2学期には、AL研修を基に、各教科でALを取り入れた授業展開で公開授業を実施し、各教員が授業互見して意見交換するなどの取り組みを実施した。

04 ICT教育の充実

- ・プロジェクターを活用する授業が増加し、生徒に理解しやすい授業を工夫する教員が増えた。作成した教材を共有することが今後の課題となっている。
- ・生徒が、課題を選び、調べ、発表する形式の授業を展開するため、プレゼンテーションソフトの活用が見られた。PC教室、コール教室の稼働は、ほぼ毎時間であった。

地域連携

01 職場体験プログラムの発展、充実

- ・水戸ロータリークラブの協力によるインターンシップを1年生の3学期に継続実施した。積極的に参加するように促し、昨年度を超える参加者があり、キャリアデザインを考えさせることができた。

02 ボランティア活動の充実 （水戸梅プロジェクト他）

- ・梅まつり開催時期に偕楽園での外国人への案内活動、水戸まちなかフェスティバルをはじめ、水戸ホーリーホック、サイバーダイナミクス茨城ロボッツなどのスポーツ団体との交流で自発的活動をする機会に恵まれ、地域との連携が図れた。
- ・「第11回全国高校生英語ディベート大会 in 茨城」では、全国から集まった高校生のサポートをしてホスト校としての役割を果たした。

03 カナダ ハリー・エインリー校との交流強化

- ・ハリー・エインリー校のジャパントリップが復活となり、21名のハリー高生を受け入れた。短期ではあったが、ホームステイも受け入れ交流ができた。

04 特進選抜コース 海外研修制度の確立

- ・オーストラリア・シドニーのマッコリー大学における大学生との交流をはじめ、ホームステイ、シドニーオリンピックパーク内での研修など、異文化交流に止まらない研修制度を計画・実施することができた。特進選抜コース開設年度のため初めての海外研修であったが、次年度は改善点等を反映し、より良い研修になるよう制度の確立を目指す。



生徒募集の強化

01 確かな基礎学力を有し、学ぶ意欲の高い受験生の確保

- ・本校で開催するオープンスクール、学校説明会と中学校に出向いて行われる説明会で、本校の教育活動を受験生に告知した。

○過去3年間のオープンスクール・学校説明会参加者の推移

年度	2016年度	2015年度	2014年度
夏季	1,967	1,864	1,745
秋季	445	175	187
合計	2,412	2,039	1,932

夏季：オープンスクール（7月下旬 4日間開催）

秋季：学校説明会（10月下旬～11月上旬 3日間開催）

- ・ホームページの更新を頻繁に行い、常に新しい情報発信に努めた結果、アクセス数が増加した。（平均月間アクセス数 2014年度 15,036件→2015年度 19,473件→2016年度 20,782件）
- ・受験者数は、昨年を上回り（推薦174名、一般2,096名）448名の入学生を確保した。
- ・合否判定は、入試得点率のみの判定に止めず、評定を加味して、評定の低い受験生は不合格にするなど、学ぶ意欲のある生徒の確保に努めた。

施設設備

01 本館各ホームルーム教室へのプロジェクターの設置 [918,000円]

- ・熊本地震の影響等による理由から、プロジェクターの設置が年度末まで遅れることとなった。次年度以降、有効に活用していきたい。

02 校内Wi-Fi環境の整備

- ・生徒、教員のICT活用をさらに推進するためには、校内Wi-Fiの整備が待たれるところである。21世紀型の教育活動には、PC活用は必須であるので、一人1台のデバイス配備を目標に今後も検討していきたい。

2016年度 事業概要

Achievement Report 2016

智学館中等教育学校

教育・学習支援

01 シラバスの作成、発行

これまでの実績を踏まえた各教科の6年間の授業進度等をシラバスとして製本し、保護者総会にて配付した。シラバスに基づいた授業を展開するとともに、シラバスの改良に努めた。

02 学校行事の体系化

- これまでの実績を見直し、学校行事の精選化を図った。
- 学習合宿：7月4日～7日まで全年次生徒を対象に実施した。
- 智学館カップ：6月19日に予定通り実施した。(2016年度より隔年実施のため、2017年度は実施なし。)
- 智学館フェスティバル：2016年度より隔年実施のため、実施なし。
- 芸術鑑賞会：11月16日に国立新美術館にて「ダリ展」と「二科展」を鑑賞し、都内有名大学の見学も合わせて実施した。
- 学校公開：11月12日に授業公開を実施した。
- English Day：12月17日午前中に実施した。(2017年度より全日化の予定。)
- Walking Day：歩くルートで大洗発から涸沼発に変更し、3月4日に実施した。



03 習熟度別授業体制の充実

- 校外模試分析「学力カルテ」の作成を通して、情報を全教員で共有し、担任指導・教科指導の徹底を図り、弱点強化・実力向上に努めた。
- 「特別トップ講座」の開講を通して成績優秀者の実力向上に努めた。
- 従来の「放課後ゼミ」「長期休暇ゼミ」も実施した。
- 定期考査ごとに、習熟度別授業受講者の入れ替えを実施し、生徒のモチベーション向上を図った。

04 教員研修の充実

- 教科ごとに教育課題について議論し、テーマを持った授業研究・指導案の検討・研究授業等、実践的な研修を実施した。
- 新規採用者に対しては、管理職等からの指導・助言を与えながら公開授業を核として、教科指導力の向上を図った。

地域連携・国際交流

01 希望参加型 海外研修プログラムの検討

智学館単独プログラムと常磐大学・常磐短期大学との合同プログラムの検討を開始した。

02 地域行事への積極的な参加

9月10日に彩の国保育園音楽会へ合唱部が参加した。

生徒募集の強化

01 ホームページの充実

- ホームページの操作性を向上させ、ダイレクトに知りたい情報へアクセスできるように各ページを更新した。
- Facebook 情報の開示性を高めるために、ホームページのトップページに常時表示できるように改善を行った。

02 入試方法等の改善

- 前年度より実施した適性検査型入試と特待生制度が高評価であったため、2017年度入試については大きな変更を加えず、前年度の入試を踏襲した形で実施した。

03 10周年を活用した広報活動の強化

- 10周年記念行事をフェスティバル(文化祭)と連結させ、2018年度入試に向けた広報活動に活用できるよう検討を行った。
- 10周年を迎えるにあたり、グレードアップ委員会を立ち上げ、学力向上に向けた取り組み・オプションの留学制度新設・理科教育の充実・基準服リニューアル等の実施に向けた検討を行った。

施設設備

01 校内施設整備の検討 [1,681,290円]

開校時より使用していた、理科実験室4室(サイエンスシアター・化学実験室・生物実験室・物理地学実験室)およびミニシアターのプロジェクター設備一式を更新した。

常磐大学幼稚園

教育

01 質の高い幼児期の学校教育を目指した保育体制の充実 (わくわくチャレンジの発展と工夫)

- 常磐大学・常磐短期大学の教育と連携した専門性の高い保育を実践した。
- わくわくチャレンジの新しい活動内容について企画会で検討を行った。

02 計画的な教職員の研究実践 (全国幼児教育研究大会〈茨城大会〉 公開保育に向けての研究実践)

- 公開保育前年(2017年度)の園内研修会に向けて、実施計画を策定し、その流れを踏まえ園内研修を行った。

園児募集の強化

01 子育て支援の強化 (預かり保育時間延長・保育環境の充実)

- 未就園児親子プログラム「まつの子ぐみ」の参加申し込みにつながるよう見学希望者の積極的な受け入れを行い、確実な新入園の希望者につなげた。

施設設備

01 園舎の修繕検討

- 事業計画において、2018年度に屋根の塗装工事、2020年度に空調機の更新工事の実施計画を策定した。

02 園庭の環境整備 (園庭・水生植物園・トキワの森・まつのご広場)

- 保護者ボランティアの参加日の拡大を図った。
- 日常の保育の中で、ホタルの成育につながる水生植物園の清掃活動の取り組みを行った。

03 通園バス更新・増台と運行コースの検討

- 通園バス2台の導入から約16年が経過し、不具合が生じる頻度が高くなったことから、2017年度に更新することを決定した。また、バスの増台と運行コースの変更(広域化)については、2017年度も引き続き検討を重ねていく。



財務状況

Financial Report

学校法人会計について

学校法人の目的は、学校を運営して教育・研究等の諸活動を遂行することであり、営利や利潤の追求を目的とする企業会計とはその性質が異なります。

企業会計では、売上と費用から利益を明らかにすることが求められていますが、学校会計では、収入をいかに効率的かつ適切に教育・研究等の諸活動に充当したかを明らかにすることが求められています。

学校法人の目的もさることながら、学校法人の収入のほとん

どが、学生生徒納付金や国や地方公共団体などからの補助金等で成り立っていることから、在学生や保護者をはじめステークホルダーに対し、財務状況および財政状態を開示、説明する必要があります。

このため、学校法人は、「学校法人会計基準」に基づき会計処理を行い、財務計算に関する書類（「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」）を作成することが義務付けられています。

2016年度決算について

財産目録 2017年3月31日

財産目録は2016年度末における本学の財産と債務を記載した目録です。2016年度の資産総額は271億円、負債総額は15億円で正味財産は255億円となっています。

(単位:千円)

区分		金額
資産額	基本財産	土地 117,281.015㎡ 4,592,587
		建物 90,184.61㎡ 13,653,045
	機器備品 20,977点 425,684	
	図書 434,054冊 2,225,097	
	車輛 710	
	その他 25,879	
	運用財産	現金預金 5,413,313
	特定資産 499,039	
	その他 272,539	
	資産総額 27,107,895	
負債額	固定負債	長期借入金 0
		退職給与引当金 722,927
	流動負債	短期借入金 0
		その他 801,901
負債総額 1,524,828		
正味財産(資産総額-負債総額) 25,583,066		

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

貸借対照表 2017年3月31日

貸借対照表は、学校法人の年度末の財政状態を表します。資産の部は、学校法人の所有する財産を示し、負債及び純資産の部は、財産の調達財源を示します。本学の2016年度末の資産規模は271億円で、前年度より2億円の減少となりました。

(主要な増減科目)
 ・「有形固定資産」については、償却資産の除却処理および減価償却等による減少がありますが、見和キャンパス体育館改築工事により増加となっております。
 ・「流動資産」については、見和キャンパス体育館改築事業への財源を現金預金で充当したため減少となっております。

(単位:千円)

区分	2016年度末	2015年度末	増減
有形固定資産 <small>貸借対照表日後1年を超えて使用される資産で、土地、建物、構築物、教育研究用・管理用機器備品、図書、車輛など</small>			
固定資産	21,442,043	20,923,225	498,817
有形固定資産	20,897,125	20,398,601	498,523
土地	4,592,587	4,592,587	0
建物	13,000,965	12,415,236	585,729
構築物	652,079	724,293	△ 72,213
教育研究用機器備品	395,083	433,439	△ 38,355
管理用機器備品	30,600	37,181	△ 6,581
図書	2,225,097	2,194,665	30,432
車輛	710	1,197	△ 487
特定資産	499,039	499,039	0
第2号基本金引当特定資産	497,839	497,839	0
第3号基本金引当特定資産	1,200	1,200	0
その他の固定資産	25,879	25,585	293
借地権	15,562	15,562	0
電話加入権	5,017	5,017	0
施設利用権	5,298	5,004	293
流動資産	5,685,852	6,389,834	△ 703,982
現金預金	5,413,313	6,103,127	△ 689,813
未収入金	257,460	270,269	△ 12,808
前払金	15,078	16,438	△ 1,359
資産の部合計	27,107,895	27,313,060	△ 205,164
負債の部			
固定負債	722,927	740,555	△ 17,627
退職給与引当金	722,927	740,555	△ 17,627
流動負債	801,901	822,779	△ 20,878
未払金	64,782	61,664	3,118
前受金	737,118	761,115	△ 23,997
負債の部合計	1,524,828	1,563,335	△ 38,506
純資産の部			
基本金	36,083,506	35,183,221	900,284
第1号基本金	35,200,942	34,244,397	956,544
第2号基本金	497,839	497,839	0
第3号基本金	1,200	1,200	0
第4号基本金	383,525	439,784	△ 56,259
繰越収支差額	△ 10,500,439	△ 9,433,496	△ 1,066,943
翌年度繰越収支差額	△ 10,500,439	△ 9,433,496	△ 1,066,943
純資産の部合計	25,583,066	25,749,725	△ 166,658
負債及び純資産の部合計	27,107,895	27,313,060	△ 205,164

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

財務状況

Financial Report

2016年度決算について

資金収支計算書 2016年4月1日から2017年3月31日まで

資金収支計算書は、学校法人の1年間の活動に対応する収入と支出の内容と支払資金の顛末を表します。2016年度の資金収支規模は、112億6千万円となり、主な収入項目としては学生生徒等納付金収入38億7千万円、補助金収入8億9

千万円、前受金収入7億3千万円などがあり、支出項目としては人件費支出32億2千万円、教育研究費支出10億6千万円、管理経費4億2千万円などがあります。翌年度への繰越資金は、前年度より6億8千万円減少し、54億1千万円となりました。

収入の部		(単位:千円)			
科目	2016年度予算	2016年度決算	差異		
補助金収入 <small>国や地方公共団体からの補助金など</small>	3,931,899	3,870,557	61,341	学生生徒等納付金収入 <small>授業料、入学金、実験実習料、施設拡充費など</small>	
学生生徒等納付金収入	3,931,899	3,870,557	61,341		
手数料収入	85,698	92,367	△6,669		
寄付金収入	8,000	14,994	△6,994		
補助金収入 (国庫補助金収入)	885,365	897,172	△11,807		
(地方公共団体補助金収入)	356,440	325,019	—		
(施設型給付費収入)	446,659	498,119	—		
資産売却収入	82,266	74,034	—		
資産売却収入	0	0	0		
付随事業・収益事業収入	80,822	86,740	△5,918		
受取利息・配当金収入	2,110	1,842	267	前受金収入 <small>翌年度の学生生徒等に係る授業料、入学金、実験実習料、施設拡充費など</small>	
雑収入	185,347	216,995	△31,648		
借入金等収入	0	0	0		
小計	5,179,241	5,180,671	△1,430		
前受金収入	766,595	737,118	29,476		
その他の収入	270,269	270,269	0		
資金収入調整勘定	△761,115	△1,024,046	262,930		
前年度繰越支払資金	6,103,127	6,103,127	—		
収入の部合計	11,558,117	11,267,139	290,977		
					前年度繰越支払資金 <small>前年度末時点での現預金の残高</small>
支出の部					
科目	2016年度予算	2016年度決算	差異		
管理経費支出 <small>教育研究以外の活動のために支出する経費</small>	3,134,483	3,027,507	106,975	教育研究経費支出 <small>教育研究活動のために支出する経費(学生生徒等を募集するために支出する経費を除く)</small>	
人件費	3,134,483	3,027,507	106,975		
退職金支出	164,679	200,779	△36,100		
教育研究経費支出	1,204,234	1,065,782	138,451		
管理経費支出	490,294	429,392	60,901		
借入金等利息支出	0	0	0		
借入金等返済支出	0	0	0		
施設関係支出	1,087,185	1,080,827	6,357		
設備関係支出	65,280	54,015	11,264		
資産運用支出	0	0	0		
小計	6,146,155	5,858,305	287,849	設備関係支出 <small>教育研究用・管理用機器備品、図書、車輛など</small>	
その他の支出	69,515	76,742	△7,227		
[予備費]	(0)				
資金支出調整勘定	△16,438	△81,220	64,782		
翌年度繰越支払資金	5,328,885	5,413,313	△84,427		
支出の部合計	11,558,117	11,267,139	290,977		

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

活動区分資金収支計算書 2016年4月1日から2017年3月31日まで

活動区分資金収支計算書は、学校法人会計基準の改正に伴い、資金収支計算書に追加して、新たに作成することになった計算書類です。資金収支計算書を「教育活動による資金収

支」「施設整備等活動による資金収支」「その他の活動による資金収支」の3つの活動に区分し、それぞれの活動での収支を明らかにします。

		(単位:千円)	
	科目	金額	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	3,870,557
		手数料収入	92,367
		特別寄付金収入	9,261
		経常費等補助金収入	896,970
		付随事業収入	86,740
		雑収入	216,995
	教育活動資金収入計	5,172,892	
	支出	人件費支出	3,228,287
		教育研究経費支出	1,065,782
		管理経費支出	429,392
教育活動資金支出計		4,723,462	
差引	449,430		
調整勘定等	△11,490		
教育活動資金収支差額	437,940		
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	5,733
		施設設備補助金収入	202
		施設整備等活動資金収入計	5,935
	支出	施設関係支出	1,080,827
		設備関係支出	54,015
		施設整備等活動資金支出計	1,134,843
	差引	△1,128,907	
	調整勘定等	798	
	施設整備等活動資金収支差額	△1,128,109	
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△690,169	
資金収支	収入	受取利息・配当金収入	1,842
		その他の活動資金収入計	1,842
	支出	その他の活動資金支出計	0
		差引	1,842
	調整勘定等	△1,487	
	その他の活動資金収支差額	355	
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△689,813		
前年度繰越支払資金	6,103,127		
翌年度繰越支払資金	5,413,313		

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

教育活動資金収支差額
 教育活動資金収支差額では、本業である教育活動のキャッシュベースでの収支状況を見ることができます。「教育活動」でどのくらいキャッシュを生み出せるかが重要となります。

施設整備等活動資金収支差額
 施設整備等活動資金収支差額では、当該年度に施設設備の購入がどれだけあり、財源がどうであったかを見ることができます。

その他の活動資金収支差額
 その他の活動による資金収支差額では、借入金の収支、資金運用の状況など、主に財務活動を見ることができます。

財務状況

Financial Report

2016年度決算について

事業活動収支計算書 2016年4月1日から2017年3月31日まで

事業活動収支計算書は、学校法人の1年間における諸活動（「教育活動」「教育活動以外の経常的な活動」「前記以外の活動」）に対応する事業活動収入および事業活動支出の内

容とこれらの均衡の状態を表します。2016年度の事業活動収入は51億8千万円、事業活動支出は53億5千万円で、1億6千万円の支出超過となりました。

科目		2016年度予算	2016年度決算	差異	
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	3,931,899	3,870,557	61,341
		手数料	85,698	92,367	△6,669
		寄付金	7,000	9,261	△2,261
		経常費等補助金 (国庫補助金)	885,187	896,970	△11,783
		(地方公共団体補助金)	356,262	325,019	—
		(施設型給付費)	446,659	497,917	—
		付随事業収入	82,266	74,034	—
	事業支出の部	雑収入	80,822	86,740	△5,918
		教育活動収入計	185,347	218,093	△32,746
		給与	3,134,483	3,027,507	106,975
		人件費 退職金等	158,123	184,249	△26,126
		教育研究経費 (減価償却額)	1,767,114	1,624,261	142,852
		管理経費 (減価償却額)	562,880	558,479	—
徴収不能額等	566,284	510,863	55,420		
教育活動支出計	75,990	81,471	—		
徴収不能額等	0	5,470	△5,470		
教育活動収支差額	5,626,004	5,352,353	273,650		
教育活動外収支	教育活動外収支差額	△450,051	△178,362	△271,688	
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	2,110	1,842	267
	事業活動	その他の教育活動外収入	0	0	0
	事業支出の部	借入金等利息	2,110	1,842	267
	事業活動	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	
教育活動外収支差額	2,110	1,842	267		
経常収支差額	△447,941	△176,519	△271,421		
特別収支	事業収入の部	資産売却差額	0	0	0
	事業活動	その他の特別収入 (施設設備補助金)	1,178	12,882	△11,704
	事業支出の部	特別収入計	178	202	—
	事業活動	特別収入計	1,178	12,882	△11,704
事業支出の部	資産処分差額	0	3,021	△3,021	
事業活動	その他の特別支出	0	0	0	
特別支出計	0	3,021	△3,021		
特別収支差額	1,178	9,861	△8,683		
[予備費]	(0)		30,000	30,000	
基本金組入前当年度収支差額	△476,763	△166,658	△310,104		
基本金組入額合計	△1,033,989	△1,006,637	△27,351		
当年度収支差額	△1,510,752	△1,173,296	△337,455		
前年度繰越収支差額	△9,433,496	△9,433,496	0		
基本金取崩額	0	106,353	△106,353		
翌年度繰越収支差額	△10,944,248	△10,500,439	△443,808		
(参考)					
事業活動収入計	5,179,241	5,188,715	△ 9,474		
事業活動支出計	5,656,004	5,355,374	300,629		

※百円の位を切り捨てし、千円単位で表記

教育活動収支差額

教育活動収支差額では、経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況を見ることができます。

教育活動外収支差額

教育活動外収支差額では、経常的な収支のうち、財務活動による収支状況を見ることができます。

経常収支差額

経常収支差額では、経常的な収支のバランスを見ることができます。

特別収支差額

特別収支差額では、資産売却や処分等の臨時的な収支を見ることができます。

基本金組入前当年度収支差額

基本金組入前当年度収支差額では、毎年度の収支バランスを見ることができます(従来の帰属収支差額に相当します)。

当年度収支差額

当年度収支差額は、従来の消費収支差額に相当します。

各種比率等一覧

【経営の状況】事業活動収支計算書関係比率・消費収支計算書関係比率(法人全体)

	算式(*100)①	算式(*100)②	0%	50%	100%
人件費比率 人件費総額の経常収入に占める割合を示す。	人件費 帰属収入	人件費 経常収入			
				62.6	65.4
				62.1	
教育研究経費比率 教育研究活動の維持・発展に関する経費の経常収入に占める割合を示す。	教育研究経費 帰属収入	教育研究経費 経常収入		34.3	33.0
				31.4	
管理経費比率 学校法人運営上必要となる経費の経常収入に占める割合を示す。	管理経費 帰属収入	管理経費 経常収入		10.0	9.7
				9.9	
事業活動収支差額比率(帰属収支差額比率) 事業活動収支差額の事業活動収入に対する割合で収支状況を示す。	帰属収入-消費支出 帰属収入	基本金組入前 当年度収支差額 事業活動収入		-7.0	-3.5
				-3.2	
学生生徒等納付金比率 自己財源である学生生徒等納付金の経常収入に占める割合で、安定的に推移していることが望ましい。	学生生徒等納付金 帰属収入	学生生徒等納付金 経常収入		71.2	73.4
				74.8	
補助金比率 国および地方公共団体からの補助金の事業活動収入に占める割合を示す。	補助金 帰属収入	補助金 事業活動収入		16.6	16.6
				17.3	
基本金組入率 学校法人の諸活動に不可欠な資産の充実のためにどれだけ基本金に組入れたかを示す。	基本金組入額 帰属収入	基本金組入額 事業活動収入		1.0	0.1
				19.4	

【財政の状況】貸借対照表関係比率(法人全体)

	算式(*100)①	算式(*100)②	0%	100%	200%	300%	400%	500%	600%	700%
純資産構成比率(自己資金構成比率) 純資産の総資産に占める割合で、財政的な経営の安定性を示す。	自己資金 総資産	純資産 総負債+純資産		94.3	94.3					
				94.4						
固定比率 固定資産取得にどの程度純資産が導入されているかの指標で、100%以下であれば純資産で賄えることを示す。	固定資産 自己資金	固定資産 純資産		85.4	81.3					
				83.7						
流動比率 短期的な支払能力を示すもので、一般的な判断基準として200%以上であれば優良とみなされている。	流動資産 流動負債	流動資産 流動負債		644.4	776.6					
				709.0						
総負債比率 総資産に対する総負債の比重を示す。	総負債 総資産	総負債 総資産		5.7	5.7					
				5.6						
基本金比率 組入した基本金の比率を示し、100%に近いほど未組入がないことを示す。	基本金 基本金要組入額	基本金 基本金要組入額		100.0	100.0					
				100.0						

※学校法人会計基準の改正に伴い、2014年度以前については、算式①を用いて、2015年度以後については、算式②を用いて、比率を算出しています。

財務状況総括

2016年度決算における事業活動収支では、事業活動全体において、事業活動収入計が51億8千万円、事業活動支出計が53億5千万円となり、基本金組入前当年度収支差額(従前の帰属収支差額)は1億6千万円の支出超過となりました。

事業活動収入での予算対比では、自己財源である学生生徒等納付金収入が予算額を下回ったものの、手数料収入や補助金収入など教育活動収入での増収や特別収入での施設設備寄付金等もあり、予算額を上回る事業活動収入となりました。事業活動支出では、継続的な経費抑制の実施により、主要項目である人件費や教育研究経費、管理経費なども予算額を下回り、事業活動支出で3億円の減額となりました。

予算対比での事業活動収支差額の改善は図れましたが、決算に

おける均衡状況は支出超過と、引き続き課題を残す部分ではありますが、本学は1997年度以降借金なしでの経営を継続しており、総合的な財務比率において取り組むべき課題はあるものの、総負債比率5.6%(前年度5.7%)、固定比率83.7%(前年度81.3%)、短期的支払能力を示す流動比率709.0%(前年度776.6%)、経営の安定性を示す純資産構成比率94.4%(前年度94.3%)から見ると健全な経営が行われていると言えます。

本学では、さらなる支出の適正管理を図るとともに、社会環境の変化や学校法人の社会的使命を再認識し、教育環境の維持、地域貢献につながる優れた研究の推進を実現するために、今後も健全で持続性のある財務基盤の確立を目指して取り組む所存です。

入試状況

Entrance Examination Results

2017年度 常磐大学大学院 入試結果

研究科	入学定員	志願者	受験者	合格者
人間科学研究科博士課程(後期)	2	1	1	0
人間科学研究科修士課程	10	11	11	5
合計	12	12	12	5

注：2017年度秋 semester 入学は除く

2017年度 常磐大学 入試結果

学部	学科等	入学定員	志願者	受験者	合格者
人間科学部	心理学科	90	148	147	144
	教育学科 初等教育コース	50	93	93	89
	中等教育コース	16	40	40	37
	現代社会学科	90	149	149	143
	コミュニケーション学科	70	74	74	72
健康栄養学科	80	156	154	143	
総合政策学部	経営学科	85	133	133	122
	法律行政学科	75	66	66	65
	総合政策学科	85	114	114	109
合計		641	973	970	924

編入学試験

学部	入学定員	志願者	受験者	合格者
人間科学部	19	1	1	1
国際学部	7	1	1	1
コミュニティ振興学部	20	0	0	0
合計	46	2	2	2

2017年度 常磐短期大学 入試結果

学科	入学定員	志願者	受験者	合格者
キャリア教養学科	100	87	87	87
幼児教育保育学科	140	142	142	141
合計	240	229	229	228

学生生徒等在籍状況

Enrollment

常磐大学大学院 (2017年5月1日現在)

研究科	入学定員	収容定員	入学者数	現員
人間科学研究科博士課程(後期)	2	8	0	5
人間科学研究科修士課程	10	20	4	8
被害者学研究科博士課程(後期)	—	3	—	2
被害者学研究科修士課程	—	—	—	1
コミュニティ振興学研究科修士課程	—	—	—	1
合計	12	31	4	17

常磐大学 (2017年5月1日現在)

学部	学科	入学定員	収容定員	入学者数	現員
人間科学部	心理学科	90	370	78	353
	教育学科	66	190	72	222
	現代社会学科	90	338	113	320
	コミュニケーション学科	70	318	43	157
	健康栄養学科	80	328	94	380
総合政策学部	経営学科	85	85	94	94
	法律行政学科	75	75	39	39
	総合政策学科	85	85	58	58
国際学部	経営学科	—	218	—	227
	英米語学科	—	186	—	98
コミュニティ振興学部	コミュニティ文化学科	—	192	—	104
	地域政策学科	—	192	—	147
	ヒューマンサービス学科	—	256	—	120
合計		641	2,833	591	2,319

常磐短期大学 (2017年5月1日現在)

学科	入学定員	収容定員	入学者数	現員
キャリア教養学科	100	200	87	168
幼児教育保育学科	140	280	140	287
合計	240	480	227	455

常磐大学高等学校 (2017年5月1日現在)

	入学定員	収容定員	入学者数	現員
常磐大学高等学校	440	1,320	448	1,212

智学館中等教育学校 (2017年5月1日現在)

	入学定員	収容定員	入学者数	現員
智学館中等教育学校	120	720	36	148

常磐大学幼稚園 (2017年5月1日現在)

	入園定員	収容定員	入園者数	現員
3歳児	55	55	60	60
4歳児	若干名	60	0	63
5歳児	0	60	0	58
合計	—	175	60	181

進路状況

Post-graduation

2016年度 常磐大学大学院 進路状況

研究科	修了生	就職者	就いた者	一時的な就職者	大学院(研究科)	その他
人間科学研究科博士課程(後期)	1	0	1	0	0	0
人間科学研究科修士課程	7	6	0	0	0	1
被害者学研究科博士課程(後期)	0	—	—	—	—	—
被害者学研究科修士課程	2	1	1	0	0	0
コミュニティ振興学研究科修士課程	0	—	—	—	—	—
合計	10	7	2	0	0	1

2016年度 常磐大学 進路状況

学部・学科	卒業生	就職者	就いた者	一時的な就職者	大学院(研究科)	学校内他職種	その他
人間科学部	心理学科	60	52	3	0	1	4
	教育学科	47	41	4	0	2	0
	現代社会学科	75	71	0	0	0	4
	コミュニケーション学科	43	38	3	0	0	2
	健康栄養学科	78	75	0	1	0	2
計	303	277	10	1	3	12	
国際学部	経営学科	72	65	3	0	0	4
	英米語学科	29	27	1	0	1	0
計	101	92	4	0	1	4	
振興学部	コミュニティ文化学科	30	24	1	0	1	4
	地域政策学科	38	34	0	1	0	3
	ヒューマンサービス学科	30	28	2	0	0	0
計	98	86	3	1	1	7	
合計	502	455	17	2	5	23	

2016年度 常磐短期大学 進路状況

学科	卒業生	就職者	就いた者	一時的な就職者	大学(学部)	学校内他職種	その他
キャリア教養学科	89	81	2	1	1	1	4
幼児教育保育学科	146	144	2	0	0	0	0
合計	235	225	4	1	1	1	4

2016年度 常磐大学高等学校 進路状況

コース	卒業生	大卒(学部)	短期大学(本科)	専修学校(専門課程)	公共職業能力開発施設等	就職者	その他
特進	82	62	4	9	0	0	7
進学A	148	76	8	42	4	12	6
進学B	75	46	2	18	4	4	1
常磐大	71	23	44	1	0	2	1
合計	376	207	58	70	8	18	15

2016年度 智学館中等教育学校 進路状況

	卒業生	大卒(学部)	短期大学(本科)	専修学校(専門課程)	公共職業能力開発施設等	就職者	その他
智学館中等教育学校	16	12	1	3	0	0	0

教職員数

Faculty/Staff

教員数 (2017年5月1日現在)

学校	専任/非常勤	人数
常磐大学大学院	非常勤	3 (2)
常磐大学	専任	学長・教授 52 (13)
		准教授 37 (12)
		講師・助教 24 (7)
	小計	113 (32)
	非常勤	109 (38)
常磐短期大学	専任	教授 8 (2)
		准教授 10 (5)
		講師・助教 3 (0)
	小計	21 (7)
	非常勤	30 (23)
常磐大学高等学校	専任	77 (31)
	非常勤	22 (14)
智学館中等教育学校	専任	29 (9)
	非常勤	4 (2)
常磐大学幼稚園	専任	8 (8)
	非常勤	7 (7)
合計	専任	248 (87)
	非常勤	175 (86)

※()内の数字は、女性の人数を内数で示す。

職員数 (2017年5月1日現在)

学校	専任/非常勤	人数
常磐大学大学院・常磐大学・常磐短期大学	専任	91 (44)
	非常勤	48 (38)
常磐大学高等学校	専任	6 (1)
	非常勤	5 (4)
智学館中等教育学校	専任	4 (3)
	非常勤	2 (1)
常磐大学幼稚園	専任	1 (0)
	非常勤	3 (1)
合計	専任	102 (48)
	非常勤	58 (44)

※()内の数字は、女性の人数を内数で示す。

法人の概要

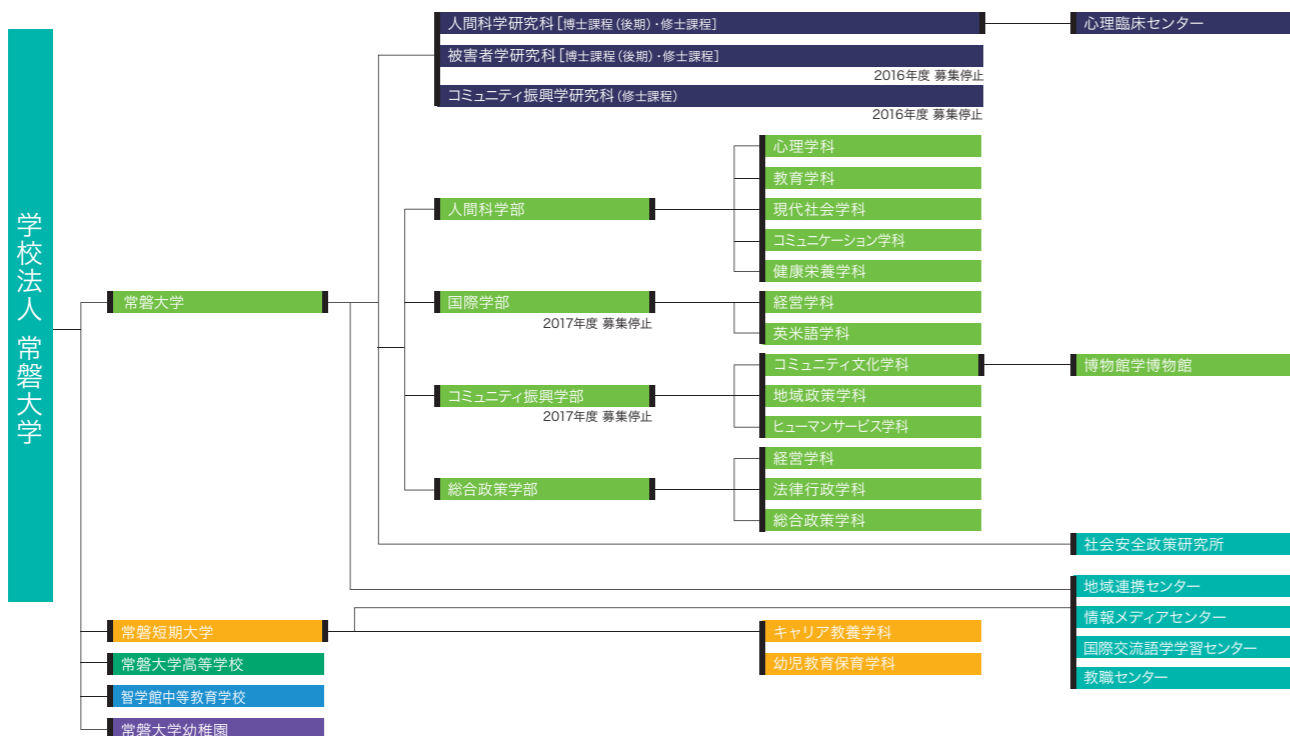
役員等

2017年6月1日現在

理事長	森 征一	
理事	富田 信穂	常磐大学・常磐短期大学長
	宮田 武雄	茨城県立産業技術短期大学校長、元茨城大学長、同大学名誉教授
	佐久間正祥	水戸赤十字病院名誉院長
	中崎 啓子	常磐短期大学同窓会みわの会会長
	幡谷 信勝	茨城県信用組合副理事長
	田中 俊郎	慶應義塾大学名誉教授
常任理事	小櫃 重秀	常磐大学高等学校長
	富田 恭平	
	小柳 武	
	横須賀敬章	
監事	荒川 誠司	弁護士、荒川法律事務所
	若山 実	税理士、若山実税理士事務所
評議員 学識経験者	宮田 武雄	茨城県立産業技術短期大学校長、元茨城大学長、同大学名誉教授
	佐久間正祥	水戸赤十字病院名誉院長
	石渡千恵子	石渡産婦人科病院副院長、元茨城県教育委員会委員長
	師岡 文男	上智大学文学部教授、国際ワールドゲームズ協会 (IWGA) 理事
	橋本 五郎	読売新聞特別編集委員
	遠山 勤	(株)常陽銀行顧問、元(財)常陽地域研究センター理事長
	川俣 勝慶	茨城県信用保証協会会長、元茨城県副知事
	坂本 達哉	慶應義塾大学教授、元(学)慶應義塾常任理事
	森山 賢一	玉川大学教師教育リサーチセンター長、同大学院教育学部教授、同教育学部教授
	山口 正雄	銚田市教育委員会委員
	斉藤 久男	(財)茨城県国際交流協会理事長

評議員 教職員	川津 園恵	(学)常磐大学事務員
	渡部 茂己	常磐大学副学長
	柴田 幸義	常磐大学高等学校教頭
	李 精	常磐短期大学副学長
	水嶋 陽子	常磐大学人間科学部教授
	西野 光範	(学)常磐大学事務員
評議員 卒業生	池田 正則	常磐大学同窓会会長
	中崎 啓子	常磐短期大学同窓会みわの会会長
	小林千代子	常磐学園同窓会(常磐大学高等学校同窓会)副会長
評議員 学生・生徒 の保護者	渡邊 英一	常磐大学後援会会長
	戸塚 泰彦	常磐短期大学父母の会会長
	小田 克彦	常磐大学高等学校PTA会長
参 与	田中 茂範	慶應義塾大学環境情報学部教授、同大学院政策・メディア研究科委員
	左巻 健男	法政大学生命科学部環境応用化学科教授
	齋藤 敬徳	齋藤・船橋労務相談事務所所長
	小松美穂子	常磐大学特任教授

組織構成



常磐大学大学院 常磐大学 常磐短期大学



伝統の実学教育の継承と発展を通じて
社会貢献を目指します。

常磐大学・常磐短期大学 学長 富田 信穂

PROFILE

専門：犯罪学・被害者学・被害者支援。慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学。常磐大学人間科学部助教授、教授を経て、2010年9月同学部長。2014年4月常磐大学副学長。2015年4月より現職。日本被害者学会理事、公益社団法人いばらき被害者支援センター理事長などを兼任。

高度情報化、グローバル化、都市化、過疎化、少子化、高齢化、価値観の多様化など、わが国の社会は急速に変化しています。またこの変化によりさまざまな問題が発生し、その解決が求められています。高等教育機関には、このような社会の変化や社会の要請にいかに対応するべきかが問われています。

このような状況の中で、2015年4月1日に学長を拝命し、大変身が引き締まる思いであります。

常磐大学・常磐短期大学は、「実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる」という建学の精神に基づき、教育理念である「自立・創造・真摯」に立脚した教育を展開してまいりました。この伝統の実学教育を継承すると同時に一層推し進め、教育、研究、

および地域連携活動を通じて、社会のさまざまな問題を解決し、社会に貢献できる次代の人材を養成することが学長に課せられた課題であると認識しております。

以上に基づき、本学の2017年の目標は昨年と同様「ミトナルマナビ」としました。これは「水戸を拠点として学ぶ」(水戸ナル学ビ)、「自分の成長のために学ぶ」(身トナル学ビ)、そして「自分の夢の実現や社会への貢献のために学ぶ」(実トナル学ビ)などを指しています。

このような本学のさまざまな取り組みをご理解いただくとともに、本学へのさらなるご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。

— ミトナルマナビ — 3つの重点ポイント

グローバル化が進行する現代社会には、解決が待たれるさまざまな問題が存在しています。本学では、建学の精神や教育の理念に則り、水戸の地から、世界的視野で考えて主体的に判断・行動し、地域社会と国際社会に貢献する専門性を持った教養人を育成するため、3つの重点ポイントを掲げ、「ミトナルマナビ」を目指します。



夢の実現・社会への貢献

応用能力
人間や人間を取り巻く問題を主体的に発見し、基礎能力と専門能力を駆使して解決策を見出し、問題解決に向けて自立して行動できる応用能力

専門能力
知的活動の基盤となるアカデミックスキルと、人間・自然・文化・社会を深く理解する幅広い教養と知識を身につけ、それらを創造的な視点から捉えなおす専門能力

基礎能力
社会人としての必要な知識と倫理観を備え、人間や人間を取り巻く問題を科学的な視点で捉えて、問題を解決する力に欠かせない基礎能力

豊かな人格
自分と真摯に向かい合いながら他者の意見や立場を尊重し、自他相互の良いところは伸ばし、不十分なところを補うことができる

「ミトナルマナビ」を実践するためのステップ

Tokiwa University Graduate School

常磐大学大学院

教育の理念
「自立」「創造」「真摯」

人間科学研究科 人間科学専攻 博士課程(後期) 人間科学研究科 人間科学専攻 修士課程

常磐大学大学院は、1989年に人間科学研究科を開設し、以来、人間に関わる研究課題を追究しています。人間を理解し、それらの問題を科学的な視点で研究することを目指し、多彩な研究領域を提示するとともに、間口の広い人間研究の機会を提供しています。

Doctoral Program in Human Science

人間科学研究科 人間科学専攻 博士課程(後期)

研究科の特色 人間と社会に関わる諸科学を学際的に考究する研究科です。生命科学、心理学、教育学、社会学、コミュニケーション学、被害者学、社会福祉学など、人間を理解する上で欠かすことができない学問の成果に基づき、学際的、複眼的に人間を理解することができる体制を整えています。他大学の大学院修士課程修了者にも適した博士課程(後期)です。

取得可能学位 博士(人間科学) **研究領域** 第Ⅰ領域 人間の発達と適応 第Ⅱ領域 人間と社会・コミュニケーション

Master's Program in Human Science

人間科学研究科 人間科学専攻 修士課程

研究科の特色 生命科学、心理学、教育学、社会学、コミュニケーション学、情報と社会、被害者学、地域振興学、地域福祉学といった周辺諸科学の英知を集め、複眼的に人間を理解することができるようなカリキュラムを整えています。また、第Ⅲ領域では、臨床心理士試験の受験資格取得に必要な科目を編成しており、日本臨床心理士資格認定協会から第1種指定大学院として認可されています。

取得可能学位 修士(人間科学) **研究領域** 第Ⅰ領域 人間の発達と適応 第Ⅱ領域 人間と社会・コミュニケーション 第Ⅲ領域 臨床心理学

研究科の教育研究上の目的 (常磐大学大学院学則第3条の2)

- 1 専攻分野について自立した研究者として研究活動を推進し、その成果をもって学術および文化の振興に寄与できる研究者および教育者を養成する。
- 2 専門的な職務に従事するために必要な研究能力および専門的知識を身につけて、社会の各分野で活動して社会一般の福祉の増進に寄与できる専門的職業人を養成する。

心理臨床センター

心理臨床センターは、臨床心理士の養成・訓練、心理相談活動、心理臨床に関する学術研究などを行う教育・研究機関です。また、「地域に開かれた大学」として、いじめや非行、家族の悩み、職場のストレスなど、子どもから大人まで、あらゆる世代の「心の悩み」について、センターに所属する相談員(臨床心理士)または臨床心理士を目指す研修員(大学院生等)が相談に応じる他、年に数回、公開講演会や公開研修会を開催しています。



Tokiwa University

常磐大学

教育の理念
「自立」「創造」「真摯」

人間科学部 総合政策学部 国際学部 コミュニティ振興学部

常磐大学は1983年に開学し、人間科学部を開設、2017年には総合政策学部を開設しました。人間の本質に迫る学際的なカリキュラムと、現代社会が直面する諸問題に対し具体的な解決策を提示する総合的なカリキュラムの中で、実践的で基礎能力に裏付けされた応用能力を身につけた、社会に貢献できる人材を養成します。

College of Human Science

人間科学部 心理学科 教育学科 現代社会学科 コミュニケーション学科 健康栄養学科

学部の特徴 人間とは何か。この素朴な疑問に、人文科学、社会科学、自然科学の学問研究の成果を結集して、学際的・総合的にアプローチする学部です。行動と心理、発達と教育、社会の仕組み、人と人とのコミュニケーション、健康と栄養など、人間の営みについて探究し、人々を取り巻くさまざまな事柄について実証的な研究を進めます。

取得可能学位 学士(人間科学)

学部の教育研究上の目的 (常磐大学学則第2条の2)

- 1 広い視野と豊かな人間性を備え、国際化する社会の各分野で活動してその進展と福祉の増進に貢献できる人材を養成する。
- 2 人間および人間の福祉の増進に関する学際的および総合的な教育研究を行う。

学科紹介

心理学科 Department of Psychology

人間の「心」に科学的な視点からアプローチし、さまざまな思考や行動の心理的過程やメカニズムを探求します。そして、多くの人が心理的問題を抱える現代において、人々がスムーズに社会に適応し、自己実現を果たせる環境づくりに寄与できる人材を育成します。

教育学科 初等教育コース 中等教育コース Department of Education

初等教育コースでは、幼稚園教諭や小学校教諭、中等教育コースでは中学校教諭や高等学校教諭の免許状を取得できるほか、両コースで司書教諭などの資格取得も可能です。充実した教育実習事前指導、実践の教育現場に即した授業や幅広い教員採用試験対策などを通して、実践的指導力を持つ教育者を養成します。

現代社会学科 Department of Contemporary Social Studies

社会学的な観点から人間が生きる世界・人々が幸せに生きるための仕組みを学び、現代社会の多様性を探求していきます。社会で生き抜く力を備え、新たな社会を創造することのできる人材、多様な社会の現実とその課題への対応策を考え、福祉社会の実現に向けて豊かな人間性を培い、幅広い専門性を身につけた人材を育成します。

コミュニケーション学科 Department of Communication

情報を読み解き、自らの考えを説明し、豊かな人間関係を築き、それを実社会で生かすことができる力を持った人材を育成します。メディアとコミュニケーションを理解し、表現する力を身につける「メディアコミュニケーション領域」と、英語でのコミュニケーション力、幅広い教養と国際感覚を身につける「グローバルコミュニケーション領域」があります。

健康栄養学科 Department of Health and Nutrition

21世紀の栄養ケア・マネジメントには、「人間栄養」の考え方に基づき、人間を広く捉える能力が求められます。本学科では、栄養学と医学の高度な専門知識に加え、コミュニケーション能力や、豊かな人間性も兼ね備えた管理栄養士を養成します。

Tokiwa University

常磐大学

College of Management and Administration

総合政策学部 経営学科 法律行政学科 総合政策学科

学部の特色

国際学部(1996年開設)、コミュニティ振興学部(2000年開設)を発展的に改組し、2017年度より総合政策学部が開設されました。総合政策学部は現代社会が直面する諸問題に3つのアプローチから取り組み、具体的な解決策を提示することのできる実践的能力を備えた人材を養成します。

取得可能学位 学士(総合政策学)

学部の教育研究上の目的 (常磐大学学則第2条の2)

1 学際的・総合的な観点から、現代の社会が直面する諸問題に取り組み、その具体的な解決策を提示することのできる実践的能力を備えた人材を養成する。

2 幅広い観点からの知識を蓄え、現代の社会が直面する諸問題を俯瞰し正当に評価できること、および具体的な解決策を導き提言・提案することに関する実践的な能力の涵養に重点を置いた教育研究を行う。

学科紹介

経営学科 Department of Management

社会のグローバル化、企業活動の多様化・複雑化に対応して、幅広い教養を基礎とした国際的なバランス感覚と専門的なマネジメント知識、ビジネススキルを身につけた人材を育成します。また、企業や地域社会の課題解決に寄与できるリーダーシップも養います。

総合政策学科 Department of Policy Management

国や地方における社会の営みと、政治・経済との関係をはじめ、文化、環境、交通、情報などの諸政策について総合的に学修します。さらに地方創生や観光ビジネスについても学んでいきます。

法律行政学科 Department of Law and Administration

民法などの基本的な法、国や地方自治体などの組織や制度についてバランスよく学修します。現実起きた問題に対して法律の知識を用いて合理的解決法を探し出し、また行政がどう対応すべきかについて考えられる人材を育成します。さらに、人々の豊かな生活や安心安全な社会の実現のための方策について提言できる人材を育成します。

College of Applied International Studies

国際学部 経営学科 英米語学科

College of Community Development

コミュニティ振興学部 コミュニティ文化学科 地域政策学科 ヒューマンサービス学科

国際学部は、国内外の実社会で役立つ専門的スキルを身につけ、国際感覚を備えたビジネスリーダーや語学のスペシャリストを養成しています。コミュニティ振興学部は、「まちづくり」を最重要テーマとし、文化、福祉、地域政策などの分野でそれぞれの課題を見出し貢献できる人材を育成しています。2017年度より両学部は募集停止となります。

Tokiwa Junior College

常磐短期大学

教育の理念

「自立」「創造」「真摯」

キャリア教養学科 幼児教育保育学科

常磐短期大学は、1966年の開学当時から一貫して「実学」を重視し、教養に基づき社会に出て役立つ知識・スキルを教授してきました。キャリア教養学科、幼児教育保育学科の2学科を設置し、いずれの学科も実学を通じて身につけた人間力には高い評価を得ており、良好な就職実績を上げています。また、学びのステップアップを希望する学生に対しては、常磐大学をはじめ4年制大学への編入学に向けた支援も行っています。

キャリア教養学科 Department of Career Development and Liberal Arts

学科の特色

キャリア教養学科は、現代社会に直結したスキルと、それを生かすための知識を修得することを目標とします。教養に基づく実務教育と、経営情報を実践するための専門教育をバランス良く組み合わせ、基礎的な学力をベースに、一般的知識はもちろん、国際感覚、IT能力を確実に身につけた人材を育成します。卒業後は企業や地域が求める行動力を備えたビジネス実務人として、広く社会に貢献します。

取得可能学位 短期大学士(キャリア教養学)

学科の教育研究上の目的 (常磐短期大学学則第2条の2)

1 修養的教養、基礎的IT能力、コミュニケーション能力、幅広い知識および自己内省力からなる「教養」を基礎とした職業人を養成するために、これらに係る教育研究を行う。

2 ①の目的を達成するために、幅広い知識に基づく実務能力を持つ人材を養成する。

3 ①の教育研究を通じて、しっかりとした職業意識に基づく基礎的職業能力を身につけた自立した学生をあらゆる職業分野に送り出す。

学びのコース

キャリア教養コース

心理学、歴史学、文化、色彩学を基礎として、実務を学ぶコースです。教養を深めながら、オフィスにおける実務をスムーズにこなせる専門能力を育成します。IT能力、幅広い教養を備えた秘書や実務人を養成しています。

ビジネス経営コース

経営学、会計学、経済学を基礎として実務を学ぶコースです。実務的な教養を深めながら、オフィスにおける実務をこなせる専門能力を育成します。IT能力はもちろん、簿記やビジネス能力を備えた実務人を養成します。

情報・医療事務コース

情報技術、情報コミュニケーションを学びながら、SE、プログラマーを希望する学生のためのコースです。これに加え、情報と医療を結び付けた医療事務を希望する学生のためのカリキュラムも用意し、IT技術や医療事務など多様な専門職を学ぶことができます。

幼児教育保育学科 Department of Early Childhood Education and Nurture

学科の特色

幼児教育保育学科では、幼稚園教諭・保育士を目指します。幼児教育と保育の根幹となる学問を中心に学び、さらに器楽や音声、美術、体育、コンピューターなどの幅広い分野において、高度な知識と技能を身につけ人間性豊かで実践力のある教育者・保育者を養成します。

取得可能学位 短期大学士(幼児教育保育学)

学科の教育研究上の目的 (常磐短期大学学則第2条の2)

1 幼児教育および保育に携わる者として必要な豊かな人間性を育み、さらに高度な専門的知識および技術を身につけさせるために、これに係る教育研究を行う。

2 ①の目的を達成するために、幼児教育および保育を通して人間関係の基礎を教授し、保育の技術を実践的に教授する。そして、保育を通して自己の成長を図るように教育する。

3 ①の教育研究を通じて、質の高い実践力を持ち、自覚または責任を兼ね備え、子どもたちと心を通い合わせることで豊かな人間性を持った保育者を社会に送り出す。

学びの特色

幼児教育・保育の専門科目

子どもの成長を見つめながら、自分自身を向上させる。そんな豊かな人間性を養うために、「教育原理」や「教育心理学」、「保育者論」など、幅広い専門科目を用意しています。対象となる子どもたちの本質を理解しながら、保育者に必要な知識と技術を徹底的に修得していきます。

保育者の技術を修得する科目

豊かな人間性を育むために必要な、「器楽」「声楽」「合唱」「造形表現」「幼児と絵」といった、音楽や美術などの芸術系の科目が充実しています。ピアノ練習用教室、合唱室、図工室などの専用の施設も整っています。また、「手作り玩具」や「基礎体育」、「子どもの保健」など、保育者に欠かせない技能を修得する科目も多数設けています。

教育実習・保育実習

1年次の春 semester から、キャンパス内にある常磐大学幼稚園で、今後の幼児教育の基本を築く「教育実習」が行われます。そして2年次には、学外の幼稚園や保育所・福祉施設などで、学んできた理論を実践の場で具体化する実習を行います。その中で、保育者としての責任と自覚が身につけていきます。

常磐大学大学院・常磐大学・常磐短期大学

学生サポート／センター・研究所等

学生支援センター（保健室・学生相談室）

学生一人ひとりが、より充実した学生生活を送ることができるように、さまざまなサポート体制を設けています。学籍管理から履修相談、アルバイトの紹介や奨学金の手続き、資格・実習関連、課外活動等に至るまで、学生生活全般のサポートをワンフロアで完結できるように対応しています。保健室では看護師が常駐し、応急処置や健康相談、定期健康診断などを実施。また学生相談室では学生生活上のさまざまな悩みや問題について、専門のカウンセラーが無料で相談に応じています。



学生支援センター

保健室

キャリア支援センター

学生の目指す進路の実現に向けて万全の就職支援体制を整えています。入学時から各種ガイダンスを行い、正規授業科目にはキャリア形成の科目を用意。大学3年次、短期大学1年次後半からは、多彩な就職支援プログラムを実施するほか、豊富な知識・スキルを持った職員と指導教員が協力し、学生一人ひとりにきめ細かい丁寧な指導・支援を実践しています。



主な支援プログラム

- 就職ガイダンス ●自己分析セミナー ●業界・職種研究セミナー ●面接・グループディスカッション対策講座 ●エントリーシート対策講座 ●筆記試験(SPI)対策講座 ●就活メイク講座 ●就職支援バスツアー ●学内合同企業説明会 ●公務員試験対策講座 ●教員採用試験対策講座 ほか

教職センター

幼稚園、小学校、中学校、そして高等学校の教員免許状を取得するための課程を教職課程といい、教職センターはこの教職課程の運営、教育職員免許状の取得に必須である教育実習の円滑な実施や教職課程に関する所轄庁への申請等のために設置されました。幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教員をめざす学生の総合的なサポートセンターです。教育実習、介護等体験の実施、教員採用試験のサポート、茨城県教育委員会や水戸市総合教育研究所との連携・協力、教員免許状更新講習の企画、実施等を行っています。



国際交流語学学習センター

地域社会にグローバルな視野で貢献できる人材を育成する拠点として、学生たちにさまざまな国際交流や語学力向上の機会を提供しています。具体的には、①単位修得となる海外研修の展開、②交換留学制度での留学生の受け入れと本学学生の派遣、③交換留学生との英会話交流活動(English Connections)の企画や学生主体による国際交流イベントのサポート ④外国人教職員や留学生との Talk Time の設定、⑤留学生と本学学生が共同生活を送る「国際交流会館」の運営、⑥国際活動に関する情報の収集と発信などです。さらに、海外の機関との学術交流を支援しつつ、地域の国際団体との相互協力も推進しています。



情報メディアセンター

情報メディアセンターには、情報社会の基本を学ぶPC教室、同演習室、個人またはグループで使用できるPC学習室、グラフィック映像制作機能を備えたマルチメディア教室、英語学習用の教材を備えたCALLラボ、デジタル放送の録画やメディア変換ができるワークショップルームなど、情報分野の設備を集約したIT学習環境が整っています。また、図書館には、約36万冊の図書、約5,000種の雑誌などの資料が開架式で収蔵され、OPAC(蔵書検索)のほか、論文等の情報検索データベースや約7,000種の電子ジャーナルが整っています。情報メディアセンターは、あらゆる情報教育に対応する中核施設として、教育ならびに研究に利用されています。



地域連携センター

地域連携センターは、本学の持つ知的・人的・物的資源を活用し、地域社会の発展に貢献することと高等教育の普及を目的とし、「地域連携・貢献事業」と「生涯教育・学習事業」の2つの機能を持っています。茨城県内の8つの自治体等と連携協力協定を締結し、学生によるまちづくり提案や、各種イベントの企画・運営、企業との商品開発など、さまざまな形態で産学官民連携活動を行っています。また、オープンカレッジ(公開講座)では、幅広い世代を対象に教養や語学などの講座を開講。在学生向けに資格取得支援のための講座も実施しています。



◀地元Jリーグチームとの連携事業、「常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデー 2016」を企画・運営

▶一般社団法人茨城県社会福祉協議会と「産学連携講座」を開講



◀社会福祉法人茨城県社会福祉協議会と「ボランティア・市民活動フェスティバル 2016」を開催

▶茨城県内の13校が連携し、「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」を設立



社会安全政策研究所

社会安全政策研究所は、2017年4月、常磐大学国際被害者学研究所(TIVI)を発展的に改組する形で設置されました。TIVIは、国内外の研究者が集結し、ジャーナルの発行、国際研修、国際セミナーの開催など、主として被害者学や被害者支援に焦点を当てて研究し、多くの成果を収めてきました。今回設置された社会安全政策研究所は、これらの成果と実績を基礎に、社会安全、防災、災害対策、交通安全なども視野に入れた研究所として開設されました。研究者による学際的研究に留まらず、実務家の参加を得て、実務家にも評価される研究を目指しています。



博物館学博物館

博物館学に関心のある学生に学習素材を提供し、理解を深め、実技・実習に役立てることを目的とした施設です。8種類の博物館の代表的な展示法を、展示形態や照明方法、解説の在り方など多彩な技術を駆使して展示しており、ミュージアムの企画・運営方法を習得できる施設となっています。



Tokiwa University High School

常磐大学高等学校

校訓
頼れる自分になる
正しい自分になる
豊かな自分になる



常磐大学高等学校
校長
小櫃 重秀

本校は、1922年に水戸常磐女学校として開設されました。その前身である裁縫私塾の創立から数えて100年を超える歴史ある伝統校です。その後、常磐女子高等学校となり、2000年には男女共学化に取り組み、現在の常磐大学高等学校として新たな一步を踏み出しました。開学以来、本校で学んだ35,000名を超える卒業生が社会に巣立ち、さまざまな分野で活躍しています。

共学化と同時に、本校の校訓は新しく「頼れる自分になる」「正しい自分になる」「豊かな自分になる」となりました。自ら進んで何事にも取り組む姿勢を、「～になる」と表現し、生徒一人ひとりの自主性を重んじています。

「頼れる自分になる」とは、志を立て、その実現のための不断の努力により独立自尊の気構えを身につけること、生涯にわたって実生活を自らの手で切り拓くとともに、他の人々と協調協力し、新しい時代を開拓する者となること、さらには、自分の責任で物事に対処する生活態度を身につけることを意味しています。

「正しい自分になる」とは、人生と社会に対する正しい認識と判断力・行動力を身につけ、信念に従って生きる精神力と身体を鍛えること、高校生としての本分を自覚し、果たすべき責任を全うする態度を養うこと、また、基本的な生活習慣と学習習慣の確実な定着を目指すことを意味しています。

「豊かな自分になる」とは、各自の天分・個性を磨き、それぞれの特性を発揮して社会に貢献し、自信と誇りと喜びを持って、他の人々と共に生きること、他の人を思いやる心や豊かな情操を身につけること、さらには文武両道、バランスの取れた人となることを目指し、常に自分を磨き成長の糧とすることのできる生活態度を身につけることを意味しています。

私たち教職員は、未来の豊かな自分の姿を思い描き、そのために努力する生徒一人ひとりを、時には前に立ってリードし、時には後ろから見守り、またある時はすぐ横で声をかけながら支えてまいります。

3年間の学びの流れ

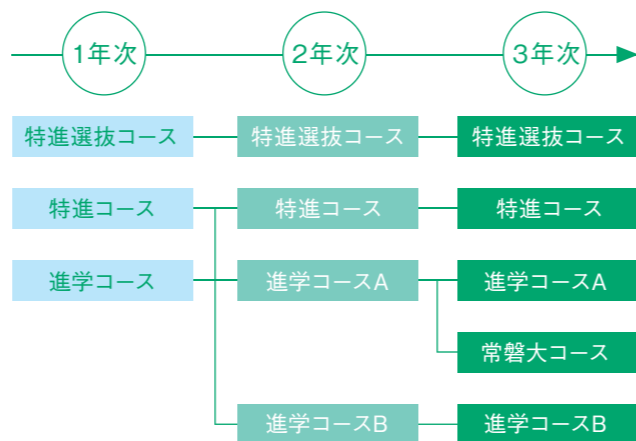
希望の進路に応える複数のコースを設け、入学段階から目標を見据えたカリキュラムで実践力を育む。

それぞれの進路希望に合わせて学ぶ複数のコースが学習効果を高めます。入学段階では「特進選抜コース」、「特進コース」、「進学コース」のいずれかに属します。

「特進選抜コース」は課題探究型学習を軸とする教育活動によって、確実な知恵の習得や思考力、表現力の育成を目指します。

「特進コース」は国公立大学や難関私立大学を目指すコースで、7限授業や0限ゼミが効果的に展開されます。大学のキャンパス見学や学習合宿を経験しながら、進むべき道を明確にしていきます。

「進学コース」は、1年次に徹底した基礎学力の習得を図り、2年次から文系のAコースと理系のBコースに分かれます。希望制のゼミも開講されており、学習面でのサポートも充実しています。3年次には常磐大学・常磐短期大学に進学を希望する生徒を対象に「常磐大コース」を設置しています。一貫校のメリットを生かし、連携授業の実施や優先的な推薦枠の確保もされています。



常磐大学高等学校の学びの特徴は、併設の常磐大学・常磐短期大学の教授陣による授業や、教育施設・設備の活用、常磐大学幼稚園でのインターンシップなど、法人全体での連携教育にあります。また、語学研修制度や、常磐大学で学ぶ海外留学生との交流の機会を設けるなど、海外文化の理解、実践的語学力の向上を目指したカリキュラムも豊富にあり、在学生在が求める多様な進路に対応した学びを提供しています。

学びの特色

常磐大学との連携教育

常磐大学の充実した施設・設備を利用することができます。約36万冊の蔵書を有する大学図書館は、高校の図書館とネットワークで結ばれており、高校に居ながらにして、大学の蔵書を検索し閲覧することも可能です。常磐大コース(3年次)では、大学での学びを先取りし「大学特別講座プログラム」を実施しています。「知る喜び考える喜び」に浸り、常磐大学常磐短期大学進学への意欲を高めながら、単位の修得ができます。また、1・2年の段階でも、常磐大学の教授陣による進路ガイダンスや講演が行われ、より深く物事を捉えるための刺激に満ちています。さらに、秋には常磐大学への留学生と会話を楽しむ English Connectionsというプログラムを用意し、生の英語を学び、異文化を体験できるチャンスを数多く設けています。



国際教育

生きた英語を学ぶ目的でカナダへ語学学習に行くプログラムが2つあります。一つ目は3カ月語学留学で、8月から11月の3カ月間カナダでホームステイしながら、ハリー・エインリー高校に通い、英語はもちろん、数学や歴史、化学、体育などの授業を現地の高校生と一緒に受けます。休日は、ホストファミリーと一緒にショッピングや観光をしたり、日本にはない行事に参加したりして、語学とともに文化に触れます。二つ目はサマーキャンプで、夏休みに約10日間、英語の集中講義を受け、培った英語を実際に使って市内散策に出かけます。今までに多くの生徒がこのプログラムに参加して語学力を身につけ、また、世界に目を向ける姿勢を養ってきました。



特進選抜コースの取り組み

2016年度から特進選抜コースがスタートしました。このコースは知識詰め込み型の学力ではなく、知識を基にした思考力や判断力・表現力といった、「21世紀社会で求められる学力」を育てるような活動をしています。2016年度は常陸太田市での社会調査を通して、探究活動の基礎・基本を体験し、その後の問題解決型学習によって、思考力や判断力、新しい発想を生み出す想像力を育てました。また、年度末にはオーストラリアへの研修へ赴き、現地の方との交流を通して言語力を養うと共に、何事においても自分からチャレンジすることの大切さを学んできました。



校外学習

仲間同士で個性を確認し合い、仲間と共に過ごす機会を創出するため、授業の一環として校外学習や芸術鑑賞会を行っています。感性豊かな高校生時代に重要な情操教育を行い、校訓の「豊かな自分になる」を実践しています。教室を離れて体験する、貴重な時間を共有することで、かけがえのない一生の思い出をつくります。



部活動

体育系 2016年度は、体操部がインターハイ5位入賞の他、団体総合6位、新体操個人総合で全国選抜大会優勝を果たしました。また、男子バスケットボール部の関東大会3位入賞、女子ソフトボール部の東日本大会出場、女子サッカー部の関東大会出場など各部活動が活発に活動し、多くの輝かしい成果を残しています。

サッカー部(男女)・野球部・陸上部・バスケットボール部(男女)・女子ソフトボール部・バドミントン部(男女)・硬式テニス部(男女)・ソフトテニス部(男女)・剣道部・卓球部・ダンス部・女子バレーボール部・男子バレー同好会

文化系 美術部や書道部、写真部、吹奏楽部を中心に作品展やコンクールで活躍しています。それぞれの部活動が活動の機会を増やし、積極的に活動する中で、日々技術の向上や研究を深めています。

書道部・美術部・写真部・吹奏楽部・演劇部・茶道部・箏曲部・文芸部・JRC部・社会部・生物部・化学部・コミック同好会・囲碁同好会・合唱同好会



Chigakukan Secondary School

智学館中等教育学校

教育の基本理念
人間の尊厳を大切に
世界的視野で考え
行動できる人になる



智学館中等教育学校
校長
山田 隆士

智学館中等教育学校は、中高6年一貫教育のもと「人間の尊厳を大切に、世界的視野で考え行動できる人材を育てる」ことを基本理念に2008年4月に開校されました。2013年度には完成年度を迎え、2017年3月には第4期生を送り出すことができました。

- 本校は、毎日の授業を通して学ぶ教育目標を
- ・グローバルマインド (Global Mind)
 - ・サイエンティフィックマインド (Scientific Mind)
 - ・ソーシャルマインド (Social Mind)

の3つで表しています。

グローバルマインドとは、智学館教育の最も重要な目標です。「英語はできて当たり前」をスローガンに智学館では独自の英語教育メソッドを通して確かな英語力を育み、物事を世界的視野で考える力を育てています。

サイエンティフィックマインドは、いろいろなことを疑う目であり、耳であり、頭です。「なぜ」という疑問を持つことは学ぶことの原点です。智学館では、理科を中心に他の教科ともネットワークを結びながら世界を広げ、自ら考え、より良い未来を築くために深い思考力を育てています。

ソーシャルマインドでは、自分が社会の一員であることに気づかせることを目標にします。6年間の学校生活を通して、社会の中で自分の果たす役割を自覚し、良き市民としての社会性を高め、活躍できる力を身につけていきます。

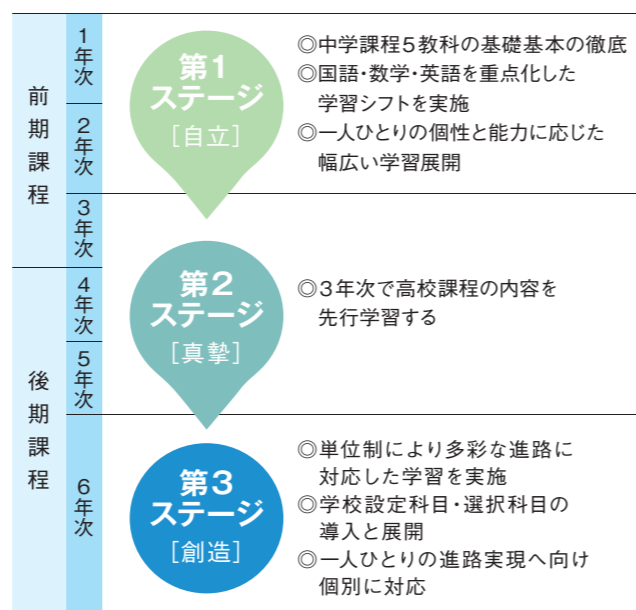
これらの3つのマインド、即ち教育目標をバランス良く、身につけられるように1時間、1時間の授業を大切にすることはもちろん、生徒が自ら課題を見つけて解決する探究型学習や海外研修など独自の教育メソッドの開発と改良に努めているところです。

これまでの教育方法や活動等をいま一度厳しく見つめ直して、改善点を議論し、奏効した実践はさらに伸ばして、生徒一人ひとりの進路希望を実現するため全力を尽くしてまいります。

6年間の学びの流れ

13歳から18歳までの多感な時期を一貫して過ごす安心感。

中等教育学校は6年制の学校で、中学課程と高校課程を分断することなく一貫教育を行います。13歳から18歳まで、心も体も大きく変化する年代を安定した環境で過ごす安心感、また深い人間関係を結ぶ点において大きな価値があります。学習面でも、一貫したカリキュラムによる無駄のない効率的な学びと、「考える力」をじっくり醸成する学習活動を進めていくことができます。



智学館教育の特徴は、覚えた知識の量で学力を測ってきた20世紀型の学校とは一線を画した教育プログラムにあります。義務教育の中学校にあたる前期課程と、高等学校にあたる後期課程を結び付けた6年一貫教育を行うことで、心も体も大きく変化する年代を安定した環境で過ごす安心感と無駄のない効率的な学びで「考える力」をじっくりと醸成する学習環境で、人間の尊厳を大切に、世界的視野で考え行動できる人材を育てていきます。

学びの特色

【Learning by Doing】

智学館英語教育メソッドで身につける「確かな英語力」。

Learning by Doing (実際に使うことを通して学ぶ) が、智学館の英語教育の基本です。文法や語彙を単に覚える従来の授業ではなく、「分かる・使える」英語を生徒に身につけてもらえるよう、独自の英語教育メソッドを使用しています。また、授業に限らず、常駐しているネイティブスピーカーの教員 (NET) と日常的に英語でコミュニケーションができる環境を整え、6年間で確かな英語力を培っていきます。さらに、English Day、海外研修などの多彩なメニューを設けているのも、智学館ならではのものです。

【4学期制・完全週6日制】

独自の4学期制でメリハリのある学校生活とゆとりある学習。

1年間をほぼ4等分した「4学期制」とし、メリハリのある学校生活を送れるよう配慮しています。短いサイクルで学習評価をきめ細かく行い、生徒たちのたゆまぬ努力を後押しします。さらに毎週土曜日に授業を行う「完全週6日制」を実施し、十分な授業時間を確保。じっくりと時間をかけながら、将来に生かせる学力をしっかりと培っていきます。

【実験・観察を重視した理科の授業】

実際に目で見て体験して理解を深め、好奇心を科学的な思考力へと成長させる学び。

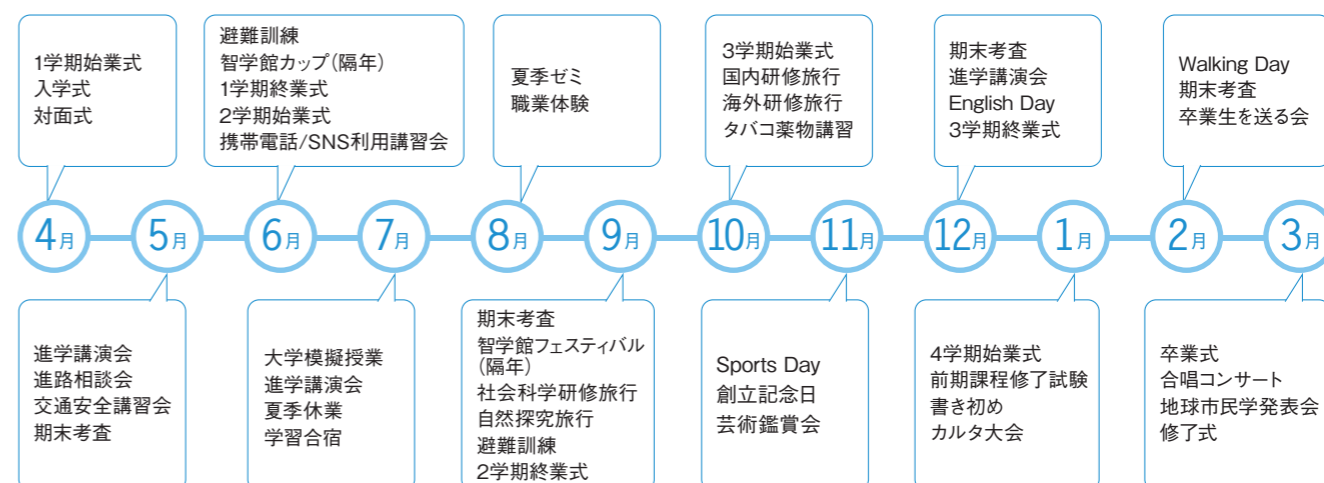
生徒の知的好奇心を高めることを第一に、実験や観察に重点を置いた授業を展開しています。例えば、天体望遠鏡を使った観測では、木星や土星などの映像を容易かつ鮮明に導入することが可能で、天体をより身近に感じることが出来ます。物理や化学に見られる難解な原理や法則も、実験に加えて豊富な映像機器を使用した図解やシミュレーションを行うことで、生徒一人ひとりが実際に目で見て体験して理解を深め、好奇心を科学的な思考力に変えていきます。授業では理科を4つの分野 (物理、化学、生物、地学) に分けて展開。6年間の理科教育を通して、確かな学力と、進路を実現する力を身につけます。



部活動 自主性と協調性を養う課外活動をバックアップ。

- | | | | |
|------------|---|------------|--|
| 体育系 | 硬式テニス部/サッカー部/卓球部/バスケットボール部/女子バレーボール部/軟式野球部(休部中)/空手同好会 | 文化系 | 天文学部/ロボット科学部/English部/歴史部/美術部/合唱部/吹奏楽部/書道部/製菓部/消しゴムハンコ部/ダンス部/演劇部 |
|------------|---|------------|--|

年間スケジュール



Tokiwa University Kindergarten

認定こども園

常磐大学幼稚園

教育目標

- ・健康で、明るい子
- ・よく考え、工夫する子
- ・みんなと仲よく遊べる子
- ・自分から進んで活動にうちこめる子



常磐大学幼稚園
園長
大武 茂樹

心身の調和の取れた成長と 自立心の芽生えを促す保育をします

今では古典的な研究ですが、スイスの動物学者ポルトマンがヒトと類人猿の成長を比較して、類人猿が直線的に成長するのに対して、ヒトには2つの爆発的成長期があることを明らかにしました。それが乳幼児期と青年期です。ポルトマンが指摘したのは体重など身体的成長だけですが、その時期には精神的にも爆発的に成長しているのではないかと思います。青年期の不登校などの問題行動は心と体の成長が不調和になるからだという説があります。だとすれば、それは幼児期にもあてはまるはずなんです。

親子関係を例に考えてみましょう。青年期には、それまで親の言うことに従っていた子どもが突然反発するようになります。いわゆる反抗期です。親にとってはショックですが、大人になるということは親を必要としなくなるということですから、反抗期はその子が大人になる上で非常に重要で不可欠な時期です。幼児期ではどうでしょうか。いわゆる「親離れ」がそれに相当します。いつも親と一緒に行動していた子が、やがて友達と一緒に遊んでいる方が楽しくなってくる。この時期に親がすべきことは「子離れ」で、子ども同士で遊ばせるなど、ある程度の距離をとって子どもを見守ることが大切です。

ここに幼稚園での保育の意義があります。ほぼ同年齢の子ども集団の中でさまざまな活動を通して、泣いたり笑ったり、怒ったり悲しんだり、競争したり時にはけんかをしたりして、共通の時間を過ごすことができるのが幼稚園です。家庭ではできないそのような体験をさせて成長を促すことが保育の特徴です。

常磐大学幼稚園の裏には水遊びができる程度の小川が流れています。対岸にはケヤキやクヌギの木があり、さらに竹藪があります。目の前には小山があり、雑木が生えています。その麓ではちょろちょろと泉が湧いています。四季の移ろいを肌で感じ、小動物の命の営みを観察できます。この自然環境を活用しつつ、心身の調和の取れた成長を育み、自立心の芽生えを促す保育を目指します。

教育の特色

常磐大学・常磐短期大学の保育に関する研究成果を取り入れた教育の研究実践。

常磐大学・常磐短期大学と一体となって、保育・教育プランを立て、実践し、検証しています。

開園当初から本園と常磐短期大学は相互協力の関係にあります。1983年から常磐大学も加わり、保育に関わる研究成果をいち早く導入し、常に質の高い保育効果を目指して努力しています。

自然が持つ教育力を生きたものとするために、園庭や大学キャンパス内の豊かな自然を活用。

自然の持つ教育力を大切にしています。

豊かな自然環境に恵まれた園内で、子どもは興味・関心に基づいた直接体験を得ることができます。多くの木々や草、花、昆虫・小動物との触れ合いは自然に対する興味と好奇心、探究心を高め豊かな心と畏敬の念を育みます。

育ちと学びをつなぐ
接続期のカリキュラムを重視。

「学びの自立」「生活上の自立」「精神的な自立」の取り組みを実施し、小学校への円滑な接続に努めています。

進学を前にした年長組を対象に小学校の就学に向けた、「育ちと学びのカリキュラム」を実施。特に後半には、小学校のタイムスケジュールに合わせた活動を計画し、休み時間にお手洗いを済ませる習慣や、次の活動が始まるまで座って待つ姿勢などを身につけます。

近隣地域の保護者を対象にした
子育て支援活動の拠点として。

地域が望む幼稚園を目指して、いつでも、育児相談に応じしています。

地域の子育て支援センターとしての幼稚園の役割を果たすべく、本園では、経営方針に「地域の幼児教育のセンター的役割」の言葉を加えて、開園当初からその役割を自覚。預かり保育をはじめ、保護者の育児相談を受けたり、未就園児の親子登園クラスを設けたりするなど、さまざまな子育て支援を実践しています。



本園は、1970年に常磐学園短期大学(現・常磐短期大学)の附属幼稚園として開園し、2015年度からは認定こども園(幼稚園型)になりました。次のような方針のもと、より良い保育の実現を目指しています。

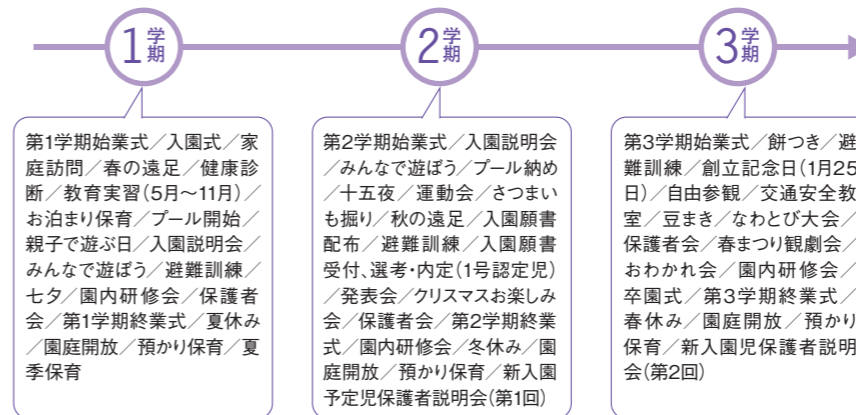
- 1.常磐大学および常磐短期大学と一体になって、常に社会のニーズに応えるべく、開かれた幼児教育の在り方を研究実践する。
- 2.地域の幼児教育のセンター的役割を担うべく、家庭や地域との連携を密にする。
- 3.常磐大学および常磐短期大学の学生の教育実習の場とする。

年間スケジュール

季節の行事は、節目節目の季節感と伝統的な催しを体験し、
日常の保育にアクセントをつけてくれます。

通常の保育時間は9:00～14:00です。通常日の保育後、また、長期休園も含めて預かり保育(虹組)を年間を通して実施しています。

1年間を3学期制で運営し、各学期には適度に行事を配置しています。幼稚園で催される行事は、楽しく参加できる活動を通じて、友達との関係を築いたり自立心を養うといった園児にとっての成長の面だけでなく、保護者同士が顔を合わせて協力することで、地域社会の形成を促す一面も有しています。



「まつの子ぐみ」

常磐大学幼稚園では、2000年度から幼稚園入園前の2歳児を対象にした親子プログラム「まつの子ぐみ」を短期大学の授業(課題研究)として実施してきました。2010年度からは、幼稚園の事業として、利用者の要望を取り入れながら内容をより充実・拡大して、親子から子ども同士のコミュニケーションへと段階的に育むための支援を行っています。子どもの成長をゆっくり「待つ」、幼稚園へ上がるのを「待つ」、そして本学ゆかりの「常磐松」、この3つの思いをつなげた「まつの子ぐみ」。母親と一緒に遊びながら、同年齢の子どもたちと触れ合うことによって、少しずつ集団生活に慣れ、入園前に社会性の基礎

を育むプログラムです。2017年度は、4月から翌年3月まで計57回の実施予定です。

積み遊びやおままごとなどにはじまり、水遊びなど、季節に合わせた活動や、幼稚園を囲む豊かな自然を生かした遊びなど、月ごとにテーマを定め、家庭での限られた遊びからさらに多様な遊びを体験させ、子どもたちの興味の幅を広げます。また子ども同士や親子間だけでなく、2歳児の子を持つ保護者同士の交流が広がることも期待されています。さらに同一キャンパスに大学・短期大学が併設されている地の利を生かし、幼児教育の専門教員に、子どもの発達や食事、子育てに関する心配事などについて、いつでも相談できる環境も大きな特徴となっています。



キャンパス案内

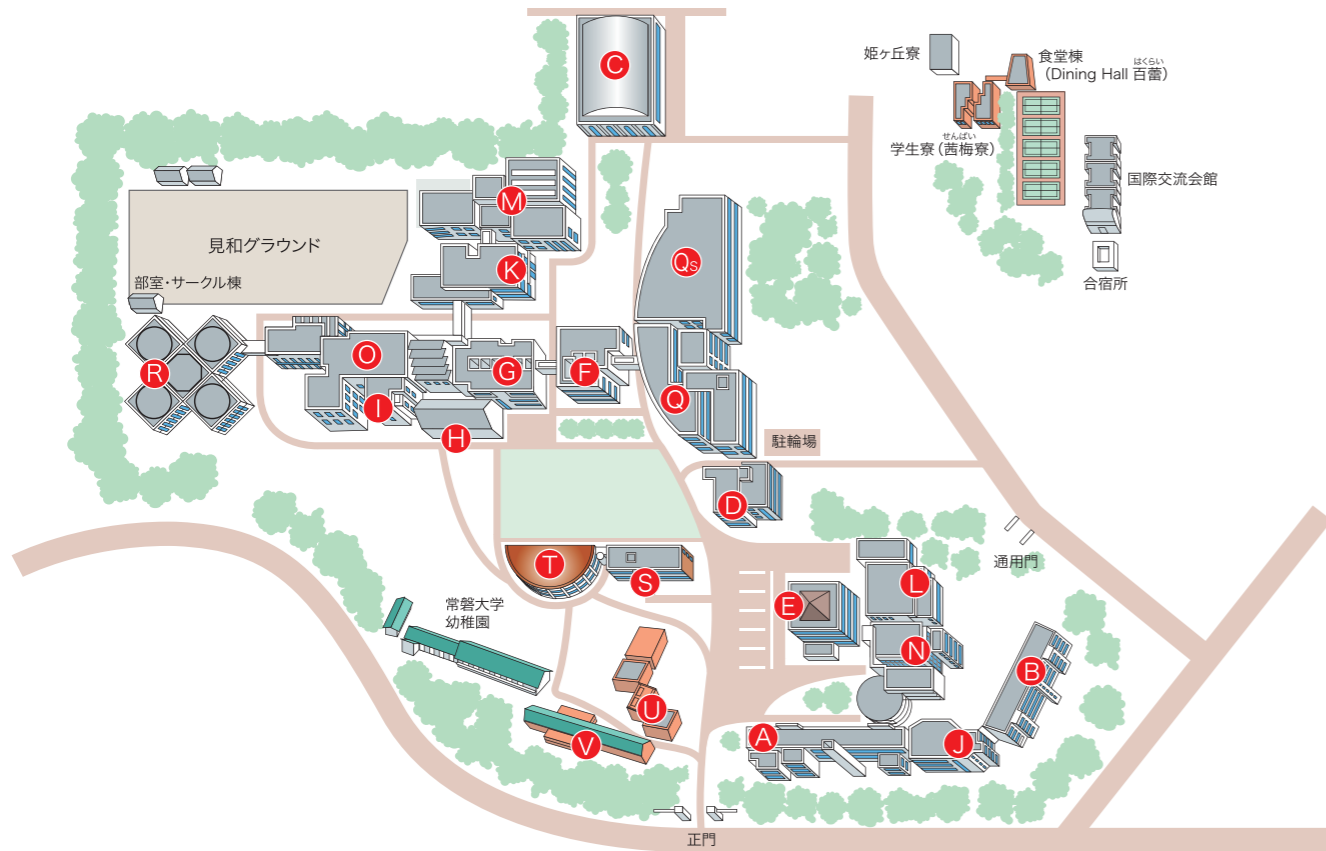
Campus Guide

見和キャンパス MIWA Campus

幼稚園から短期大学・大学・大学院の学習・研究施設まで、高等教育にふさわしい環境を整えた常磐大学の中核キャンパス。

文化都市水戸市の中心部から交通至便な場所に、大学院、大学、短期大学、そして幼稚園の主要な教育・研究施設を集約しました。「トキワの森」と言われる小さな森を有する緑豊かな敷地内には、大学と短期大学の講義・研究棟をはじめ、学生支援センター、キャリア支援センター、情報メディアセンター、国際交流語学学習センター、体育館、学生食堂など、毎日のキャンパスライフに不可欠な施設・設備を全て

備えています。また、地域に開かれた大学として、図書館の地域住民への開放を行っています。また、併設の博物館学博物館や地域連携センター、社会安全政策研究所では地域住民に学習・研究の機会を、心理臨床センターではカウンセラーによる心身のケアの機会を、幼稚園では教育・保育相談の機会を提供しています。2017年3月にはキャンパスの南側に新しい体育館が完成しました。



- A 人間科学部
- B 人間科学部 短期大学
- C 体育館
- D 短期大学 コミュニティ振興学部
- E 保健室 学生相談室 ブックセンター 地域連携センター
- F 人間科学部 ラーニング・commons F棟ラウンジ
- G 人間科学部
- H 大講義室
- I 動物心理学実験棟
- J 人間科学部 短期大学
- K 人間科学部 国際学部 コミュニティ振興学部 総合政策学部
- L 学生食堂 コンビニエンスストア ゲストハウス
- M 人間科学部
- N 短期大学 N棟ラウンジ
- O 人間科学部
- Q 情報メディアセンター(図書館) 大学院 国際交流語学学習センター センターホール インターネットカフェラバッツ
- Qs 情報メディアセンター
- R 国際学部 総合政策学部
- S 本部棟(事務棟) 学生支援センター 教職センター
- T 学生ホール 学生食堂 柔剣道場 キャリア支援センター
- U コミュニティ振興学部 総合政策学部 博物館学博物館 アドミッションセンター
- V コミュニティ振興学部 総合政策学部
- 国際交流会館
- 合宿所
- 学生寮(茜梅寮) 食堂棟(Dining Hall 百葎)
- 姫ヶ丘寮
- 常磐大学幼稚園



新荘キャンパス SHINSO Campus

無線LAN環境等を備えた新校舎が竣工。環境や安全にも配慮した高等学校専用のキャンパス。

新荘キャンパスは、常磐大学高等学校専用のキャンパスです。正門を入ってすぐのところにそびえる本館は、1年を通して快適に学習できるように、全室に冷暖房を完備しています。また、本館には、バスケットボールなどの競技に使用できるアリーナや、25mの室内温水プールがあり、体育館や全天候型の新荘グラウンドとともに、常磐大学高等学校の文武両道精神を支えています。2014年3月にはキャンパスの北側に新校舎(2号館)が完成。生徒の自立的学習を支援するためのラーニング・commonsゾーンと呼ばれる環境を整備して、さまざまな学習活動に対応します。



- A 本館、アリーナ
- B 温水プール
- C 1号館
- D 2号館(新校舎)
- E 3号館
- F 体育館
- G 70周年記念講堂
- H 南館
- I 新荘グラウンド
- J 芝生の広場

諸澤みよ記念館 Morosawa Miyo Memorial Hall

世紀を超えて継承される伝統の教育理念。百年にわたる常磐の歴史を伝える、「諸澤みよ記念館」。

学校法人常磐大学開学100周年の記念事業の一環として「諸澤みよ記念館」が、2006年12月に竣工しました。その外観は創立者・諸澤みよが晩年に過ごした地上2階建ての旧諸澤邸を再現しています。また、内部には、今日の実学重視の姿勢に通ずる「技術」をコンセプトワードに数々の資料を公開・展示。分かりやすく創立者の足跡を伝えています。



同窓会館 Alumni Association Hall

同窓会組織をつなぎ、卒業生の活動と交流の拠点となる「同窓会館」。

同窓会館は、常磐大学高等学校にほど近い水戸市新荘にあります。2階建て、総床面積439.91㎡のこの会館は、エントランスホールや応接室、多目的な用途に使える楓ホール、会議場を備え、各同窓会、後援会、サークル・ゼミの集まり等、卒業生、在学(校)生、現・旧教職員や保護者の方々にご利用いただいています。一般の方々にも広く開放しており、幅広い利用が可能な施設です。



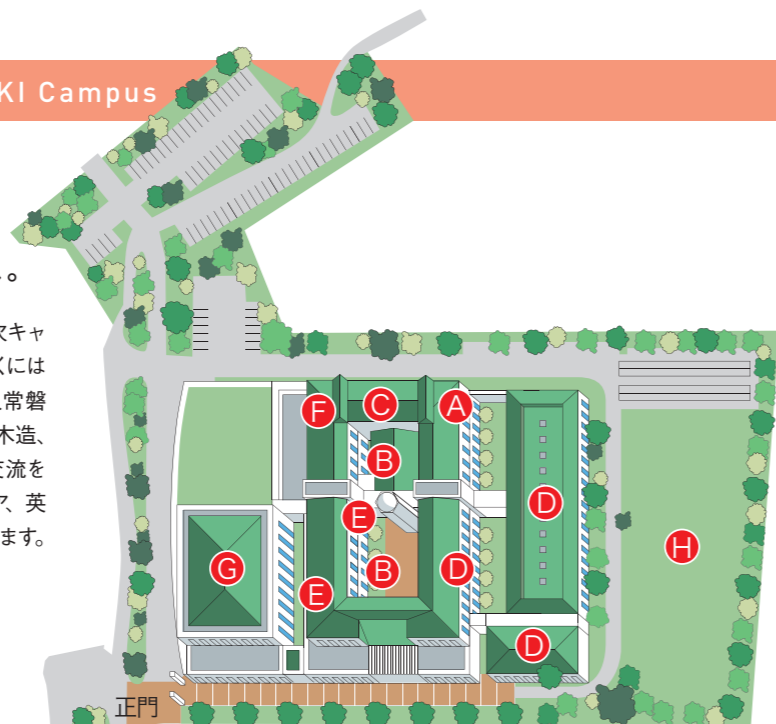
キャンパス案内

Campus Guide

小吹キャンパス KOBUKI Campus

温もりのある木造校舎と教育をサポートする最新設備。智学館中等教育学校専用キャンパス。

常磐自動車道・水戸インターに続く国道50号沿線の小吹キャンパスは、智学館中等教育学校の専用キャンパスです。近くには市立の植物園、運動競技施設が点在。西側には学校法人常磐大学の小吹グラウンドが隣接しています。キャンパス内には、木造、低層設計で生徒と生徒、生徒と教職員の温もりに満ちた交流を演出する校舎があり、理科の実験室、体育館、カフェテリア、英語学習施設など使い勝手の良さを考慮してレイアウトしてあります。



- A CALL教室
コミュニケーションスペース
- B カフェテリア
陽のあたる広場(中庭)
- C 図書室
- D 普通教室 選択科目教室
シアター
- E 各種実験室 天体観測室
カウンセリング室
- F 体育館 テニスコート
- G 図書室
- H グラウンド



小吹グラウンド KOBUKI Ground

400mトラックの陸上競技場を完備した、学生・生徒の体育・クラブ活動を支える総合運動場。

小吹キャンパスに隣接した水戸市小吹町に、総面積5万㎡を超える広大な総合運動場を有しています。小吹グラウンドは、サッカー・ラグビー場としての機能を備えた400mトラックの陸上競技場のほか、野球場、ソフトボール場、弓道場、さらには雨天練習場やクラブハウスを配置し、学生・生徒の体育・クラブ活動をバックアップしています。また、グラウンドの周辺には四季の移り変わりを彩る高木約500本、低木約6,000本を含む、40種以上の樹木を植栽。周囲との調和や環境にも配慮しています。

- A 陸上競技場
- B 野球場
- C 雨天練習場
- D ソフトボール場
- E クラブハウス
- F 弓道場「尚志館」
- G 高等学校野球場
- H 駐車場



発行・出版物

Publications



大学院学術論究
常磐大学大学院 紀要



人間科学
常磐大学人間科学部 紀要



信野国際紀要
常磐大学国際学部 紀要



コミュニティ振興研究
常磐大学 コミュニティ振興学部 紀要



常磐短期大学研究紀要
常磐短期大学 紀要



心理臨床センター紀要
常磐大学大学院
人間科学研究科
心理臨床センター紀要



Mission&Vision
学校法人常磐大学



Annual Report
学校法人常磐大学
活動と財務状況



学校案内
常磐大学大学院
パンフレット



学校案内
常磐大学・常磐短期大学
パンフレット



学校案内
常磐大学高等学校
パンフレット



学校案内
智学館中等教育学校
パンフレット



Sa・Sa・e
常磐大学幼稚園
パンフレット



Topos
学校法人常磐大学 広報誌

アクセス

Access

